



IBM Mashup Center を使用したマッシュアップ作成の概要

目次

第 1 章 チュートリアル: IBM Mashup Center を使用したマッシュアップ作成の概要	1
第 2 章 概要	3
第 3 章 モジュール A: IBM Mashup Center の概要	5
レッスン 1: 用語の学習	6
レッスン・チェックポイント	7
レッスン 2: ユーザー・インターフェースの概観	7
レッスン・チェックポイント	9
モジュール A: 要約	9
第 4 章 モジュール B: マッシュアップの組み立てとワイヤリング	11
レッスン 1: チュートリアル・ウィジェットのダウンロード	12
レッスン・チェックポイント	13
レッスン 2: マッシュアップ用の新しいページの作成	14
レッスン・チェックポイント	14
レッスン 3: マッシュアップへの顧客データの追加	14
レッスン・チェックポイント	15
レッスン 4: 顧客のサイトにおける天候状態の表示	15
レッスン・チェックポイント	17
レッスン 6: 顧客の Web サイトの表示	18
レッスン・チェックポイント	19
レッスン 8: 顧客の株価チャートの表示	20
レッスン・チェックポイント	22
レッスン 9: ワイヤリング・グラフの表示	22
レッスン・チェックポイント	23
モジュール B: 要約	24
第 5 章 モジュール C: マッシュアップでのスプレッドシート・データの使用	25

レッスン 1: 新しいフィードの作成	26
レッスン・チェックポイント	28
レッスン 2: Lotus Mashups へのフィードの追加	28
レッスン・チェックポイント	29
レッスン 3: ウィジェットのワイヤリング	29
レッスン・チェックポイント	31
モジュール C: 要約	31

第 6 章 モジュール D: フィード・マッシュアップの作成と Lotus Mashups への追加	33
レッスン 1: 新しいフィードの作成	34
レッスン・チェックポイント	36
レッスン 2: フィード・データのインポート	36
レッスン・チェックポイント	38
レッスン 3: フィード・データの再構築	38
レッスン・チェックポイント	40
レッスン 4: フィード・データのフィルター操作	40
レッスン・チェックポイント	42
レッスン 5: フィード・マッシュアップの公開と保存	42
レッスン・チェックポイント	43
レッスン 6: Lotus Mashups へのマッシュアップ・フィードの追加	43
レッスン・チェックポイント	44
モジュール D: 要約	44

第 7 章 モジュール E: マッシュアップの公開と共用	47
レッスン 1: マッシュアップのカタログへの公開	47
レッスン・チェックポイント	48
レッスン 2: 他のユーザーとのマッシュアップの共用	48
レッスン・チェックポイント	49
モジュール E: 要約	49

第 8 章 要約	51
-----------------	-----------

第 1 章 チュートリアル: IBM Mashup Center を使用したマッシュアップ作成の概要

このチュートリアルでは、IBM® Mashup Center を使用して実世界のマッシュアップを作成し、他のユーザーが使用できるようにカタログに公開するエンドツーエンド・プロセスについて学習します。ここでは、スプレッドシートのデータをマッシュアップで使用できる形式に変換し、そのデータをウィジェットに表示する方法を学習します。また、既存のフィードの出力を操作してマッシュアップに追加し、新しいフィードを作成する方法についても学習します。

学習目標

このチュートリアルを完了すると、以下の目標を達成する方法を学習できます。

- マッシュアップを組み立て、ワイヤリングする
- スプレッドシートをデータ・ソースとして使用し、新しいフィードを作成する
- 着信フィード・データを再構築して新しいフィードを作成する
- マッシュアップをカタログに公開する
- IBM Lotus Mashups にフィードを追加し、ウィジェットにデータを表示する

所要時間

2 時間

第 2 章 概要

このチュートリアルでは、IBM Mashup Center を使用して実世界のマッシュアップを作成し、他のユーザーが使用できるようにカタログに公開するエンドツーエンド・プロセスについて学習します。ここでは、スプレッドシートのデータをマッシュアップで使用できる形式に変換し、そのデータをウィジェットに表示する方法を学習します。また、既存のフィードの出力を操作してマッシュアップに追加し、新しいフィードを作成する方法についても学習します。

このチュートリアルは、5 つのモジュールに分かれています。各モジュールには、モジュールの学習目標を達成するために必要なタスクを段階的に説明する一連のレッスンが含まれています。各モジュールを順に実行することをお勧めしますが、必要であればモジュールをスキップしてもかまいません。各モジュールの終わりには、学習したレッスンの要点をまとめた要約トピックがあります。この要約トピックでは、該当する場合、追加リソースへのリンクも提供します。

各モジュールの簡単な説明については、次の表を参照してください。

表 1. モジュールの説明

モジュール	説明
モジュール A: IBM Mashup Center の概要	Mashup Center の概要を示します。いくつかの重要な用語を説明し、ユーザー・インターフェースを概観します。
モジュール B: マッシュアップの組み立てとワイヤリング	Web からダウンロードしたサンプルのウィジェットを使用して、マッシュアップの作成、組み立て、およびワイヤリングを行う方法について説明します。実世界のシナリオに基づいています。
モジュール C: マッシュアップでのスプレッドシート・データの使用	スプレッドシート・データをフィードに変換し、そのデータをマッシュアップでウィジェットに表示する方法について説明します。
モジュール D: フィード・マッシュアップの作成と IBM Lotus Mashups への追加	フィードとフィード・マッシュアップの違いを説明します。既存のフィードにあるデータを操作して新しいフィードを作成し、それを Lotus Mashups に追加する方法について説明します。
モジュール E: マッシュアップの公開と共有	ウィジェットおよびマッシュアップをカタログに公開し、他のユーザーがそれらをディスカバーして再利用できるようにする方法について説明します。

学習目標

このチュートリアルを完了することにより、以下の学習目標を達成できます。

- 基本用語とユーザー・インターフェースを理解する
- マッシュアップを組み立て、ワイヤリングする

- スプレッドシートのデータをフィードに変換し、マッシュアップに追加する
- フィード・データをフィード・マッシュアップに再構築し、マッシュアップに追加する
- マッシュアップをカタログに公開し、他のユーザーがディスカバーして再利用できるようにする

所要時間

このチュートリアルを終了するには、約 2 時間かかります。このチュートリアルに関連した他の概念を検討する場合は、完了までにそれ以上の時間を要する可能性があります。

対象読者


日常的な仕事の状況を解決するために、Mashup Center を使用してマッシュアップを作成および共有する方法を学習したいと考えている基幹業務ユーザー。

補足資料

このチュートリアルを学習する際、追加情報について以下のソースを参照するとよいでしょう。これらのソースは、IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) にあります。

- *IBM Mashup Center glossary* - Mashup Center 製品ユーザー・インターフェース全般で使用される用語と定義のリストを提供します。
- *Frequently asked questions* - Mashup Center での基本的な概念とタスクを理解するのに役立つ質問/回答形式の情報を提供します。
- *Widget help* - Lotus Mashups ウィジェットについて説明します。ウィジェットに取り込むことができるデータのタイプ、構成に関するヒント、使用シナリオの例なども提供します。

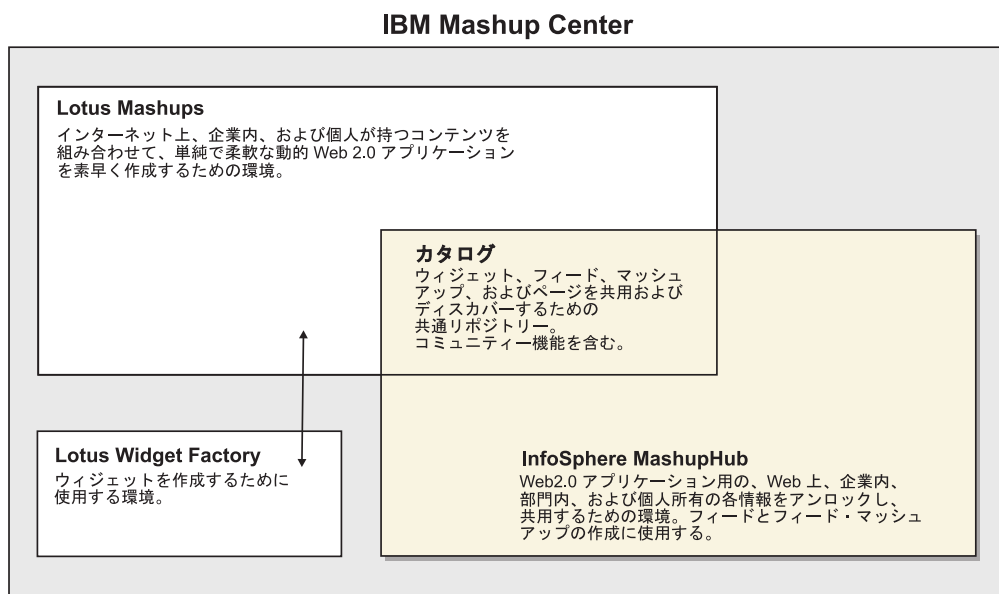
このチュートリアルの規則

語の横に  のイメージがある場合、カーソルをその上に移動すると、その語の定義を表示できます。

第 3 章 モジュール A: IBM Mashup Center の概要

このモジュールでは、いくつかの重要な用語も含め、IBM Mashup Center について学習します。ユーザー・インターフェースについても説明します。

Mashup Center は、日常的なビジネス状況に対処するために、柔軟な動的 Web アプリケーションを組み立てるための完全なエンドツーエンドのマッシュアップ・プラットフォームを提供する製品オファリングです。Mashup Center は、Web に精通したビジネス・ユーザー向けに設計されています。この製品オファリングを利用すると、ユーザーは自社の IT 部門に頼らずに、自分の業務をやりやすくして生産性と効率性を向上させることができるように、データへのアクセス方法を再編成できます。Mashup Center は、IBM Lotus Mashups、IBM InfoSphere MashupHub、および IBM Lotus Widget Factory の機能を結合したものです。次の図は、Mashup Center のすべてのコンポーネントを示しています。



Lotus Mashups は、ブラウザー・ベースのグラフィカルなワークショップ環境であり、ユーザーはこの環境でウィジェットを組み立て、マッシュアップにワイヤリングします。MashupHub は、マッシュアップに使用できるフィードの作成、保管、変換、および再編成を行うためのビジュアル・ツールが入ったプラットフォームです。どちらの製品も、マッシュアップ、ウィジェット、フィード、およびページの共有とディスカバーを行うための機能豊富なカタログを共有し、レーティング、タグ付け、コメント付けのようなコミュニティ機能が組み込まれています。これに Lotus Widget Factory が追加されることにより、Mashup Center は、ウィジェットの作成とカスタマイズのための環境を提供します。

注: このチュートリアルには、Lotus Widget Factory を使用したウィジェットの作成に関する情報は含まれていません。ウィジェットの作成方法については、Lotus Widget Factory 製品のヘルプを参照してください。

学習目標

このモジュールのレッスンを完了すると、以下の目標を達成できます。

- 一般的な Mashup Center 用語を学習する
- ユーザー・インターフェースを概観する

所要時間

このモジュールは、完了までに約 15 分かかります。

レッスン 1: 用語の学習

このレッスンでは、IBM Mashup Center で使用されるいくつかの一般的な用語について学習します。

このチュートリアル各モジュールを完了する都度、このレッスンを繰り返し参照し、用語と定義を理解してください。製品の Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) で Mashup Center の用語集にアクセスすることもできます。

以下に、Mashup Center で最もよく使用される用語のリストを示します。

カタログ

カタログは、ウィジェット、フィード、およびマッシュアップを共有およびディスカバーするための共通リポジトリであり、レーティング、タグ付け、およびコメント付けのような組み込みコミュニティ機能を備えています。

フィード

フィードは、頻繁に更新されるコンテンツを Web サイトからユーザーに配信するためのデータ・フォーマットです。Lotus Mashups では、フィードに入っているコンテンツを表示するウィジェットを作成できます。フィードは、Atom Syndication Format や Really Simple Syndication (RSS) など、さまざまなフォーマットにすることができます。フィードの詳細については、http://en.wikipedia.org/wiki/Web_feed を参照してください。

フィード・マッシュアップ

フィード・マッシュアップとは、何らかの方法で操作するフィードのことです。例えば、表示されるデータに何らかの条件に基づいてフィルターを掛けるよう、フィードを操作できます。IBM InfoSphere MashupHub では、フィード・マッシュアップ・ビルダーを使用してフィード・マッシュアップを作成できます。フィード・マッシュアップ・ビルダーには、一連の演算子と関数が含まれており、それらを使用してフィード・データをインポートし、データを操作して、結果を新しいフィードとして公開することができます。最終的に、フィード・マッシュアップはフィードと同じように動作します。それらをカタログに追加して、他のユーザーが使用したり、タグを付けたり、レーティングを付けたり、コメントを追加したりできるようにすることができます。また、フィード・マッシュアップを Lotus Mashups に追加すれば、フィード・データを「フィード・リーダー」ウィジェットまたは「データ・ビューアー」ウィジェットに表示できます。

マッシュアップ

マッシュアップとは、複数のデータ・ソースにある情報を混ぜ合わせて (マ

ッシュして)、1 つの統合された新しいエクスペリエンスにまとめ上げる軽量の Web アプリケーションのことで。一般に、マッシュアップはデータをマッシュして新しいデータ・ソースを作成するか、データを単一のグラフィカル・インターフェースに表示する新しいアプリケーションを作成します。ビジネス環境では、マッシュアップは通常、企業内のデータと Web ベースのデータを、ウィジェットの集合から単一の動的アプリケーションへと統合することで、特定の状態または問題に対処できるようにします。各ウィジェットは、マッシュが発生する前にお互いを認識している必要があります。

ページ Lotus Mashups では、ページとはマッシュアップの表示、作成、編集、およびワイヤリングを行うキャンバス領域のことで。編集モードでは、ページ・レイアウトをカスタマイズして、マッシュアップに固有の外観を持たせることができます。

ウィジェット

ウィジェットは、Web ページ内またはリッチ・クライアントの組み込みブラウザ内に簡単に配置することができる、小さなポータブル・アプリケーションまたは部分的な動的コンテンツです。ウィジェットは、任意の言語 (Java™、.NET、PHP など) で作成するか、単純な HTML フラグメントとすることができます。イベントを受け渡すウィジェットを相互にワイヤリングして、マッシュアップを作成できます。ウィジェットは、さまざまなベンダーによって、さまざまな名前 (ガジェット、ブロック、フレイクなど) で呼ばれています。

ウィジェットは、Eclipse や IBM WebSphere® sMash、さらには「メモ帳」など、さまざまなツールで作成できます。ウィジェットの作成およびデプロイメントのプロセスを容易にするために、Lotus Mashups には Eclipse ベースの高速ウィジェット作成環境である Lotus Widget Factory が組み込まれています。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、Mashup Center で使用されるいくつかの重要な用語と定義について学習しました。

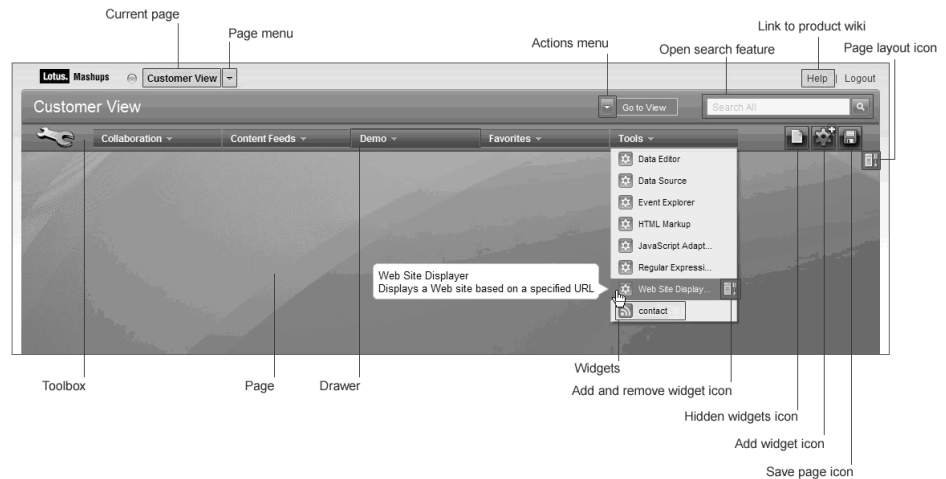
レッスン 2: ユーザー・インターフェースの概観

このレッスンでは、IBM Mashup Center のユーザー・インターフェースを概観し、ナビゲーションの方法や、マッシュアップを作成してカタログに公開するなど、重要なタスクの実行方法を理解します。


ユーザー・インターフェースを概観するためには、以下のステップを実行します。

1. 始めに、マッシュアップの組み立てとワイヤリングを行うブラウザ・ベースのグラフィカル・ツールである IBM Lotus Mashups Workplace™ を開きます。このツールを開くには、「スタート」 → 「プログラム」 → 「IBM Mashup Center」 → 「Lotus Mashups」にアクセスします。デフォルトでは、最初にブラウザを開いたとき、ツールのデフォルトのページが表示モードで表示されます。表示モードであるため、ユーザーはページの表示だけを行うことができます。この時点では、ページ設定の編集やウィジェットの追加はできません。

- 次に、編集モードに変更すると、マッシュアップの作成に必要なインターフェースのすべての部分を表示できます。編集モードに変更するには、単に、アクション・メニューの横にある「編集へジャンプ」をクリックします。これにより、次の図に示すようなツールボックスが開き、作業を開始するために必要なすべての部分が表示されます。



ツールボックスがブラウザーの上部にどのように表示されるかに注意してください。デフォルトでは、ツールボックスに一連のドロワーが装備されており、それらのドロワーには、ページ上にドラッグするウィジェットが入っています。このチュートリアルでは、後で独自のマッシュアップを作成するときに、追加のウィジェットを Web からダウンロードし、ツールボックスに追加します。

注: Lotus Mashups ユーザー・インターフェースは、マッシュアップの完璧な例です。このインターフェース全体が、個々のウィジェット  から形成されており、それらのウィジェットが相互にワイヤリングされてシームレスな作業環境を作成します。

- 次に、カタログを見てみましょう。カタログを開くには、前のステップでクリックしたアクション・メニューをクリックし、「**カタログを開く**」を選択します。IBM InfoSphere MashupHub が別のブラウザーに表示される様子に注意してください。「**カタログ**」セクションには、選択可能なすべてのフィード、ウィジェット、およびマッシュアップ・ページのリストを表示できます。それらの詳細を表示し、独自のコメント、レーティング、およびタグを提供できます。「**コミュニティ**」セクションでは、他のコミュニティー・メンバーによる推奨事項を表示できます。求めるウィジェット、フィード、およびマッシュアップ・ページを見つけたときは、単にそれらをクリックするだけでツールボックスに追加できます。
- 最後に、MashupHub でフィードを作成および操作する方法を見てみましょう。「**作成**」セクションでは、既存のデータ・ソースに基づいて新しいフィードを作成するか、フィード・ソースのインポートとデータの再構築に使用される演算子からなるフィード・マッシュアップを作成できます。最後に、マッシュアップ・ページとウィジェットを、Lotus Mashups から MashupHub にアップロードすることができます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、Lotus Mashups 内をナビゲートする方法について学習しました。また、カタログを開く方法と、MashupHub を使用してフィードを作成し、Lotus Mashups からウィジェットとマッシュアップ・ページをアップロードする方法も学習しました。

モジュール A: 要約

モジュール A では、IBM Mashup Center で使用されるいくつかの一般的な用語を学習し、ユーザー・インターフェースも概観しました。これで、次のモジュールに進み、マッシュアップの作成、組み立て、およびワイヤリングの方法を学習する準備ができました。

学習したレッスン

このモジュールを完了することにより、以下の目標を達成しました。

- 一般的な Mashup Center 用語を学習する
- ユーザー・インターフェースを概観する


追加リソース

Mashup Center についてさらに学習するには、以下のリソースを使用します。

- IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) では、チュートリアル、よくある質問、ウィジェットのヘルプ、用語集など、製品情報が提供されています。
- IBM InfoSphere MashupHub ユーザー・インターフェースの「はじめに」セクションでは、チュートリアルと例へのリンクが提供されています。

第 4 章 モジュール B: マッシュアップの組み立てとワイヤリング

このモジュールでは、単一のページでいくつかのウィジェットを組み立ておよびワイヤリングして、マッシュアップを作成する方法について学習します。

このモジュールで作成するマッシュアップ  は、一般的なビジネス・シナリオに基づいています。このシナリオでは、読者は顧客のサイトを訪問する準備をしている営業担当者です。顧客に関するあらゆる情報をできる限り収集し、サイトに到着する前に勉強しておきたいと考えていますが、多くの時間はありません。そこで、複数のソースから顧客データをプルし、そのデータを単一の動的アプリケーションに表示できる単純なマッシュアップを作成することにしました。このマッシュアップの目標は、訪問の準備をするにあたって、必要な情報を迅速かつ簡単に提供して時間を節約することです。

マッシュアップを計画する際には、マッシュアップに表示したい顧客データを決定します。データは、自社の人事部門にある内部データのほか、Web からの外部データも含め、さまざまなソースから収集したいと考えています。ユーザーは次のリストを作成します。

- 顧客の名称、所在地、およびその他の関連情報を表にしたビュー
- 顧客のサイトの天候状態
- 顧客の Web サイト
- 株価チャート

これらすべてを単一のインターフェースで、しかも単純なクリックだけで入手できれば、サイト訪問の準備作業はずっと簡単になります。

ウィジェットとワイヤリング・プロセスについて

このモジュールで学習を進めていくにつれ、マッシュアップ内では顧客データのそれぞれの部分が独自のウィジェットの中に組み込まれます。ウィジェットは、複数のマッシュアップ間で再利用したり Web ページに埋め込んだりすることができます。小さなポータブル・アプリケーションまたは部分的な動的コンテンツです。ウィジェットは、さまざまなベンダーによって、さまざまな名前 (ガジェット、ブロック、フレイクなど) で呼ばれています。他のユーザーが使用できるようにウィジェットをカタログに公開したり、カタログを検索して他のユーザーが作成したウィジェットを自分のマッシュアップに追加したりすることができます。


多数のウィジェットを互いにワイヤリングすることができます。2 つのウィジェットをワイヤリングすると、実質的にそれらのウィジェットは互いを認識し、通信が開始されることとなります。ワイヤリングした後、1 つのウィジェットに何か起きた場合、例えば、ユーザーがテーブル内のセルをクリックすると、コンテンツが 2 番目のウィジェットへ渡されます。2 番目のウィジェットがコンテンツを受信すると、指定されたアクションが実行され、例えば、ページが最新表示され、更新された情報が表示されます。

2 つのウィジェットをワイヤリングする場合、送信側ウィジェットまたは受信側ウィジェットのいずれから開始しても構いません。送信側ウィジェットから開始する場合は、以下のステップを実行します。

1. 互いにワイヤリングしたい 2 つのウィジェットを識別します。
2. どちらのウィジェットが通信を開始するかを識別します。言い換えれば、どのウィジェットが何らかの種類のイベント (リンクをクリックするなど) に基づいてコンテンツを送信するかを識別します。
3. ウィジェットに送信させたいコンテンツの部分を厳密に指定します。これは、送信側ウィジェットが複数のタイプのコンテンツを渡すことができる場合に必要になる可能性があります。
4. 受信側ウィジェットがコンテンツを受信したときに実行するアクションを決定します。多くの場合、アクションは何らかの種類のページの最新表示か情報の更新です。

このチュートリアルのマッシュアップでは、顧客名の入ったウィジェットが送信側ウィジェットであり、それ以外のウィジェットは受信側ウィジェットになります。最終的なマッシュアップでは、送信側ウィジェットで顧客名をクリックすると、送信側ウィジェットはコンテンツを他のすべてのウィジェットへ渡します。他のウィジェットはコンテンツを受信すると画面の最新表示を行い、それらのウィジェットに表示されている情報が更新され、選択された顧客のデータが表示されます。

このモジュールの最初のレッスンでは、ウィジェット・リポジトリ・サイトからチュートリアル・ウィジェットをダウンロードし、それらのウィジェットを IBM

Lotus Mashups ツールボックス  に追加します。これで、ウィジェットをマッシュアップ・ページにドラッグして互いにワイヤリングする準備ができました。

学習目標

このモジュールのレッスンを完了すると、以下の目標を達成できます。

- Lotus Mashups ツールボックスにウィジェットを追加する方法を学習する
- ページ上にウィジェットをドラッグして組み立てる方法を学習する
- ウィジェットの構成方法を学習する
- ページの保存方法を学習する

所要時間

このモジュールは、完了までに約 30 分かかります。


レッスン 1: チュートリアル・ウィジェットのダウンロード

このレッスンでは、チュートリアル・ウィジェットを外部カタログからダウンロードし、IBM Lotus Mashups ツールボックスに追加します。

注: IBM Greenhouse サイト (<http://greenhouse.lotus.com/mashups/>) 上の Lotus Mashups のバージョンを使用している場合は、次のレッスンに進んでください。この場合、ウィジェットは既に使用可能です。

このチュートリアルで使用するウィジェットの一部は、<http://greenhouse.lotus.com/mashups/> の外部カタログに置かれています。この外部カタログは、製品の将来のリリースにウィジェットのサンプル、サード・パーティーのウィジェット、およびその他のウィジェットを統合する前に、ユーザーがそれらにアクセスできるようにし、フィードバックのために弊社と共用できるようにしたいという考えから設けたものです。ユーザーは、これらのウィジェットをマッシュアップに追加する前に、これらをダウンロードし、Lotus Mashups ツールボックスに追加する必要があります。

チュートリアル・ウィジェットを Web サイトからダウンロードし、ツールボックスに追加するには、以下のステップを実行します。

1. <http://greenhouse.lotus.com/mashups/> にアクセスし、以下のウィジェットを WAR ファイルとしてローカル・マシンにダウンロードします。
 - **Google Gadget**
 - **AccuWeather**
2. IBM InfoSphere MashupHub を開きます。
3. 「作成」セクションで、「ウィジェットのアップロード」をクリックして「ウィジェット・タイプ・ソースの選択 (Select the widget type source)」ウィンドウを開きます。
4. 「ソース」フィールドで、「iWidget」を選択します。
5. 「次へ」をクリックして「ウィジェットをアップロードまたは登録します」ウィンドウを開きます。
6. 「ウィジェットのソース」として、「ウィジェット・パッケージをアップロードします」を選択します。
7. 「ウィジェットのファイル・パス」フィールドで、WAR ファイルのロケーションを参照します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「以下の情報を指定してください」ウィンドウで、ウィジェットのタイトルおよび説明を入力します。また、いくつかの有用なタグを指定し、権限を「パブリック」に設定します。「詳細」セクションのデフォルトの設定は、そのままにしておきます。
10. 「終了」をクリックします。ウィジェットがカタログに正常に保存されたことを知らせるメッセージが表示されます。
11. 2 番目のウィジェットについても上記のステップを繰り返します。
12. カatalogのホーム・ページに戻り、「ウィジェットのリスト」をクリックして、新しいウィジェットがリストされることを確認します。
13. Lotus Mashups に切り替えます。
14. オープン検索機能  を使用して各ウィジェットを検索し、ウィジェットを Lotus Mashups ツールボックスに追加します。


レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、チュートリアル・ウィジェットをダウンロードし、Lotus Mashups ツールボックスに追加しました。これで、それらのウィジェットを使用してマッシュアップを作成する準備ができました。

レッスン 2: マッシュアップ用の新しいページの作成

このレッスンでは、マッシュアップ用の新しいページを作成します。そのページが、マッシュアップの組み立てとワイヤリングを行うキャンバス領域になります。

この時点では、チュートリアル・ウィジェットの Web サイトからのダウンロード

とツールボックスへの追加が完了しており、マッシュアップ用のページ  を作成する準備ができています。IBM Lotus Mashups では、ウィジェットをページ上にドラッグすることにより、マッシュアップを作成します。ウィジェットの配置を変更し、ページ・レイアウトとテーマをカスタマイズできます。また、権限を設定し、マッシュアップをカタログに公開した後に編集アクセス権を持つユーザー・グループを指定することもできます。

マッシュアップ用の新しいページを作成するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Lotus Mashups ブラウザーを開き、編集モードに進みます。
2. ブラウザーの上部で、デフォルト・ページをクリックします。
3. 「新規ページ (New Page)」をクリックします。
4. 「名前」フィールドに、「顧客チュートリアル」と入力します。
5. **Enter** を押して、ページを作成します。

6. ツールボックスで、保存アイコン  をクリックしてページを保存します。

これで、「顧客チュートリアル」という新しいページが、ツールボックスの上にあるページ・ナビゲーション領域にリストされます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、Lotus Mashups で新しいページを作成して保存する方法を学習しました。

レッスン 3: マッシュアップへの顧客データの追加

このレッスンでは、マッシュアップに「顧客リスト」ウィジェットを追加します。「顧客リスト」ウィジェットは、複数の顧客に関するデータをテーブルに表示します。

「顧客リスト」ウィジェットには、顧客に関する次のような情報が含まれていません。

- 会社名
- 所在地
- 郵便番号
- 連絡先情報
- チッカー・シンボル
- Web サイト
- フィールド URL

これは、コンテンツをページ上にある他のウィジェットに送信するメイン・ウィジェットです。この後の各レッスンで、ページに他の各ウィジェットをドラッグするとき、それらのウィジェットを「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングし、それらのウィジェットが互いに通信できるようにします。最終的なマッシュアップでは、「顧客リスト」ウィジェット内の個々の顧客名をクリックしてコンテンツを他のウィジェットへ送信でき、これにより、他のウィジェットにはその顧客に関する最新情報が表示されます。

注： この例では実在の会社名を使用していますが、それ以外のデータは、どれも架空のものです。サンプルの「顧客リスト」ウィジェットは、デモの目的でのみ提供されています。

「顧客リスト」ウィジェットをページに追加するには、以下のステップを実行します。

1. ツールボックスで、「デモ」ドロワーを開きます。
2. マウスを使用して、「顧客リスト」ウィジェットをページ上の空の領域までドラッグします。

3. ツールボックス内の保存アイコン  をクリックして、ページを保存します。

「顧客リスト」ウィジェットにデータが表形式で表示されます。すべての列を参照するには、左から右へスクロールします。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、「顧客リスト」ウィジェットをページに追加し、顧客に関する重要情報をテーブルに表示する方法を学習しました。


レッスン 4: 顧客のサイトにおける天候状態の表示

このレッスンでは、「AccuWeather」ウィジェットをマッシュアップに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングします。「AccuWeather」ウィジェットは顧客のサイトにおける現在の天候状態を表示します。


顧客のサイトへの出張を計画する際は、多くの場合、その地域の天候がどのようなタイプのものであるかを知りたくなります。荒れた天候状態ならば、サイトに到達できるかどうかに影響が出る場合もあります。サイトに到達できる場合でも、会いたいと思っている重要人物がオフィスに来られないことも考えられます。悪天候がその週の顧客の収益に悪い影響を与え、それによって、こちらが販売するチャンスが減る可能性もあります。天候状態のクイック・ビューをマッシュアップに追加することにより、出張の延期に関する判断を下すのが容易になります。

顧客のサイトにおける天候状態のクイック・ビューを表示する最良の方法は、対話式の天気図をマッシュアップに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングすることです。これを行うには、「顧客リスト」ウィジェットを、前に Web からダウンロードしてある「AccuWeather」ウィジェットにワイヤリングします。2 つのウィジェットをワイヤリングした後、顧客名をクリックすると、その顧客のサイトにおける天候状態の更新内容を即時に表示できます。

「AccuWeather」ウィジェットをページに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングするには、以下のステップを実行します。

1. マウスを使用して、「AccuWeather」ウィジェットをツールボックスからページ上の空の領域までドラッグします。
2. 「顧客リスト」ウィジェットの右上隅で、ワイヤリング・アイコン  をクリックします。
3. ワイヤリング・パネルの「送信するコンテンツの選択」領域で、「string from Zip」を選択します。これは「顧客リスト」ウィジェットに、顧客の郵便番号を「AccuWeather」ウィジェットへ送信し、天候状態の検索にその郵便番号を使用できるようにするよう指示します。
4. 「コンテンツを受信するウィジェットの選択」領域で、「AccuWeather」を選択します。
5. 「AccuWeather」ウィジェットが「顧客リスト」ウィジェットから郵便番号を受信したときに実行できるアクションのリストで、「郵便番号 (Zipcode)」を選択します。これは「AccuWeather」ウィジェットに、受信した郵便番号での現在の天候状態を表示するよう指示します。この時点で、ワイヤリング・パネルは次のようになります。



6. 「完了」をクリックします。ワイヤリング・パネルが自動的に閉じます。
7. ワイヤリングが成功したことを確認するために、「顧客リスト」ウィジェットでさまざまな顧客名をクリックします。異なる顧客名をクリックするたびに、「AccuWeather」マップが更新され、現在選択されている顧客のサイトにおける現在の天候状態が表示されます。
8. ツールボックス内の保存アイコン  をクリックして、ページを保存します。

レッスン・チェックポイント


このレッスンでは、「AccuWeather」ウィジェットをマッシュアップに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングする方法を学習しました。これで、マッシュアップで顧客名をクリックすると、マップが更新され、その顧客のサイトにおける現在の天候状態が表示されるようになりました。

レッスン 6: 顧客の Web サイトの表示


このレッスンでは、「Web サイト表示機能」ウィジェットをマッシュアップに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングします。「Web サイト表示機能」ウィジェットは、顧客の会社の Web サイトを表示します。

顧客のサイトを訪問する前に、多くの場合、その会社の Web サイトを覗いて、販売に役立つ可能性がある情報を探してみようと考えます。例えば、ホーム・ページの主要な記事を読めば、その会社が関与している最近の投資やプロジェクトに関する情報を入手できます。これは、販売の好機を探す良い方法です。また、その会社に本当に興味を持っていることを主要な人物に知らせる良い方法でもあります。マッシュアップの中で会社の Web サイトを表示する最も簡単な方法は、「Web サイト表示機能」ウィジェットを追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングすることです。

「Web サイト表示機能」ウィジェットをページに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングするには、以下のステップを実行します。

1. ツールボックスで、「ツール」ドロワーを開きます。
2. マウスを使用して、「Web サイト表示機能」ウィジェットをページ上の空の領域までドラッグします。
3. 「顧客リスト」ウィジェットの右上隅で、ワイヤリング・アイコン  をクリックします。
4. ワイヤリング・パネルの「送信するコンテンツの選択」領域で、「string from URL」を選択します。これは「顧客リスト」ウィジェットに、顧客の Web アドレスを「Web サイト表示機能」ウィジェットへ送信し、その顧客の Web サイトを検索して表示できるようにするよう指示します。
5. 「コンテンツを受信するウィジェットの選択」領域で、「Web サイト表示機能」を選択します。
6. 「Web サイト表示機能」ウィジェットが「URL」からストリングを受信したときに実行できるアクションのリストで、「displayhtml」を選択します。これは「Web サイト表示機能」ウィジェットに、顧客の Web サイトの URL を受信したら、それを表示するよう指示します。この時点で、ワイヤリング・パネルは次のようになります。



7. 「完了」をクリックします。ワイヤリング・パネルが自動的に閉じます。
8. ワイヤリングが成功したことを確認するために、「顧客リスト」ウィジェットでさまざまな顧客名をクリックします。異なる顧客名をクリックするたびに、「Web サイト表示機能」ウィジェットが更新され、顧客の Web サイトが表示されます。
9. ツールボックス内の保存アイコン  をクリックして、ページを保存します。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、「Web サイト表示機能」ウィジェットをマッシュアップに追加し、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングする方法を学習しました。これで、マッシュアップで顧客名をクリックすると、「Web サイト表示機能」ウィジェットが更新され、顧客の会社の Web サイトが表示されます。



レッスン 8: 顧客の株価チャートの表示

このレッスンでは、「Google Gadget」ウィジェットをマッシュアップに追加し、そのウィジェットに追加する株価チャート・ガジェットを選択した後、そのウィジェットを「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングします。

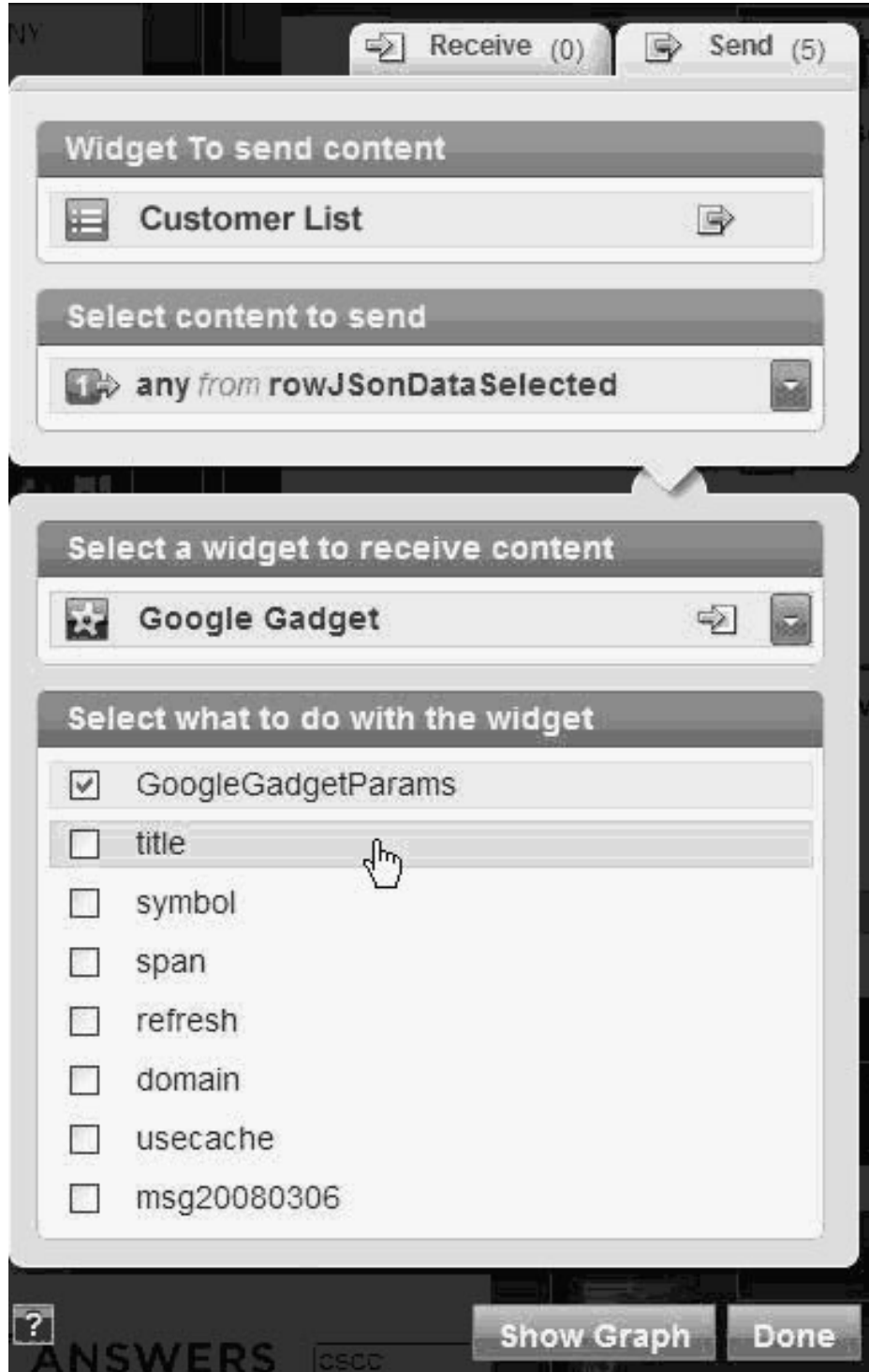
顧客のサイトを訪問するとき、言うまでもなく、販売を達成することに最も高い優先順位があります。戦略を計画するときには、多くの場合、顧客が株式市場で好調であるかどうかを知りたいと考えます。好調であれば、販売を達成するチャンスが広がります。顧客の株価動向が不調なら、株価が改善されるまで訪問を延期しようと判断する場合もあります。

この種のデータをマッシュアップに表示する最も簡単な方法の 1 つは、株価チャートを追加することです。そのためには、「Google Gadget」ウィジェットをページに追加し、このウィジェットが株価チャート・ガジェットを使用するように構成します。次に、それを「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングした後、顧客名をクリックすると、その会社の最新の株価チャートが表示されます。


「Google Gadget」ウィジェットをマッシュアップに追加し、それが株価チャート・ガジェットを表示するよう構成し、その後、「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングするには、以下のステップを実行します。

1. マウスを使用して、「Google Gadget」ウィジェットをツールボックスからページ上の空の領域までドラッグします。
2. メニュー・アイコン  をクリックして、オプションのリストを表示します。
3. リストで、「設定の編集」を選択します。
4. 構成ウィンドウで、「Google Gadget の選択 (Select a Google Gadget)」をクリックします。「Google Gadget」Web サイトが開き、ここでマッシュアップに追加するガジェットを検索できます。
5. 検索フィールドに、「株価チャート」と入力し、「ホームページ・コンテンツの検索 (Search Homepage Content)」をクリックします。
6. 株価チャートをクリックし、ウィジェットに追加します。この時点で、ページ上のウィジェットに汎用株価チャートが表示されます。
7. 「顧客リスト」ウィジェットを株価チャート・ウィジェットにワイヤリングするには、以下のステップを実行します。
 - a. 「顧客リスト」ウィジェットの右上隅で、ワイヤリング・アイコン  をクリックします。
 - b. ワイヤリング・パネルの「送信するコンテンツの選択」領域で、「rowJSONDataSelected からのすべて (any from rowJSONDataSelected)」を選択します。これは「顧客リスト」ウィジェットに、顧客の情報を「Google Gadget」ウィジェットに送信し、その顧客の株価チャートを表示できるようにするよう指示します。
 - c. 「コンテンツを受信するウィジェットの選択」領域で、「Google Gadget」を選択します。

- d. 「Google Gadget」ウィジェットが顧客の情報を受信したときに実行できるアクションのリストで、「GoogleGadgetParams」を選択します。これは「Google Gadget」ウィジェットに、顧客情報を受信したら、その顧客の株価チャートを表示するよう指示します。この時点で、ワイヤリング・パネルは次のようになります。



- e. 「完了」をクリックします。ワイヤリング・パネルが自動的に閉じます。

8. ワイヤリングが成功したことを確認するために、「顧客リスト」ウィジェットでさまざまな顧客名をクリックします。異なる顧客名をクリックするたびに、株価チャートが現在選択されている顧客の株価で更新されます。
9. ツールボックス内の保存アイコン  をクリックして、ページを保存します。


レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、「Google Gadget」ウィジェットをマッシュアップに追加し、そのウィジェットを、株価チャート・ガジェットを使用するように構成して「顧客リスト」ウィジェットにワイヤリングする方法を学習しました。これで、マッシュアップで顧客名をクリックすると、「Google Gadget」ウィジェットが更新され、その顧客の最新の株価チャートが表示されるようになりました。


レッスン 9: ワイヤリング・グラフの表示

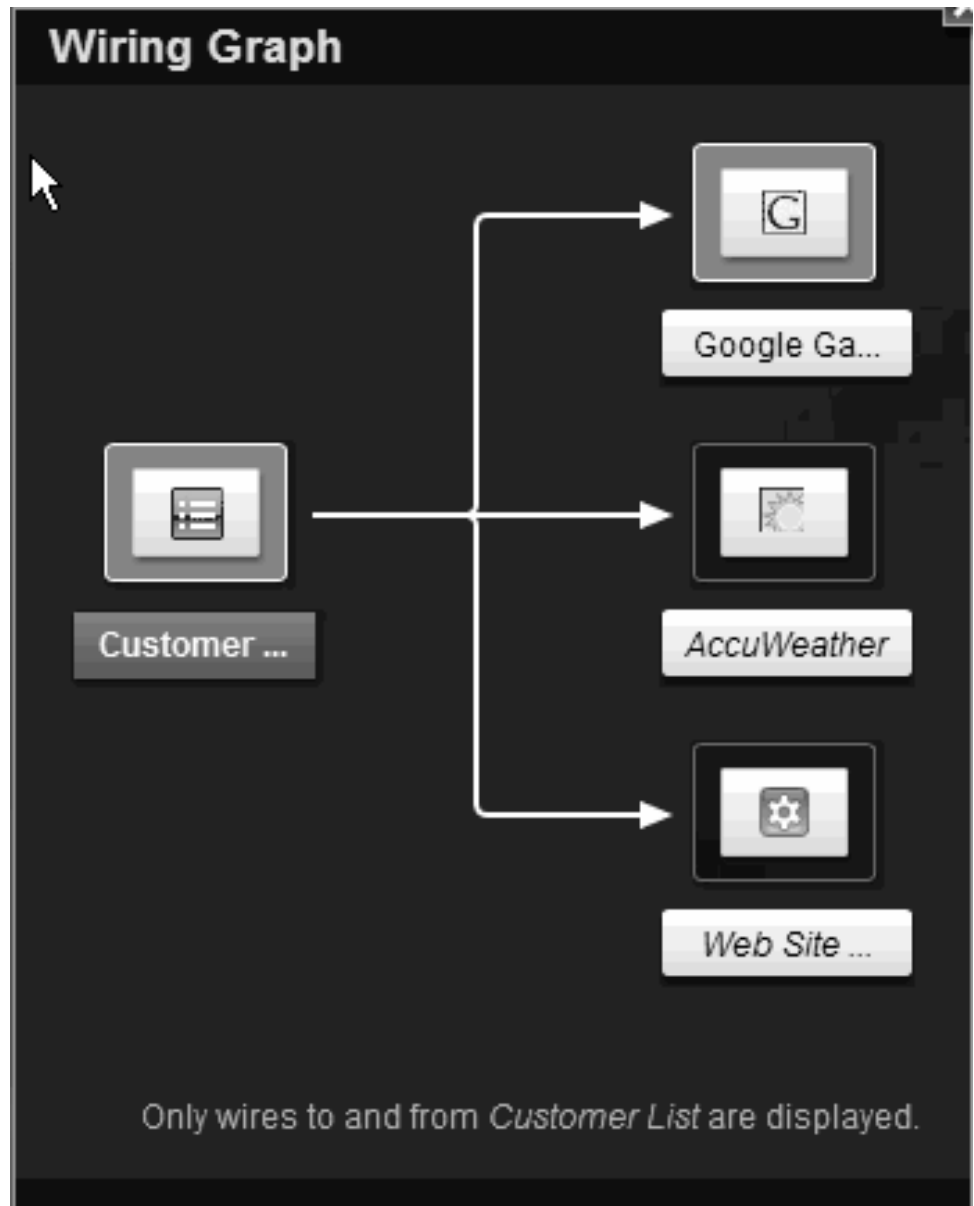
このレッスンでは、マッシュアップのワイヤリング・グラフを表示します。このグラフでは、これまでのステップで作成したすべてのワイヤリングが適切に配置されていることを視覚的に確認できます。

これまでのステップでマッシュアップを作成した際には、途中で、単に「顧客リスト」ウィジェットをクリックして他のウィジェットを更新することにより、ワイヤリングが正しく機能しているかどうかを確認しました。例えば、「顧客リスト」の中で顧客名をクリックすると、突然、「AccuWeather」ウィジェットに顧客のサイトにおける天候状態が表示され、「Web サイト表示機能」ウィジェットに顧客の Web サイトが表示され、「Google Gadget」ウィジェットが更新され、顧客の株価チャートが表示されます。これらすべての部分が正しく機能しているなら、マッシュアップを正しくワイヤリングしたことが分かります。

このステップでは、単にワイヤリング・グラフ  を表示して、ワイヤリング・ジョブのグラフィカルな概要を参照します。ワイヤリング・グラフは、すべてのワイヤリングが正しくセットアップされて機能していることを視覚的に確認するもう 1 つの方法です。

ワイヤリング・グラフを表示するには、以下のステップを実行します。

1. 「顧客リスト」ウィジェットで、メニュー・アイコン  をクリックして、オプションのリストを表示します。
2. リストで、「ワイヤリング・グラフの表示」を選択します。これにより、IBM Lotus Mashups ワイヤリング・グラフが開きます。任意のワイヤリング・パネルで「グラフの表示 (View Graph)」をクリックして、ワイヤリング・グラフを開くことができる点に注意してください。
3. 合計 3 つのワイヤリングがあり、各ワイヤリングが「顧客リスト」ウィジェットからマッシュアップ内にあるその他のウィジェットへ接続されていることを確認します。ワイヤリング・グラフが下記のように表示されれば、マッシュアップは正しくワイヤリングされています。



4. ツールボックス内の保存アイコン  をクリックして、ページを保存します。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、「ワイヤリング・グラフ」を使用して、マッシュアップ内のワイヤリングが正しくセットアップされていることを確認する方法について学習しました。

モジュール B: 要約

モジュール B では、顧客のサイトの訪問を準備する営業担当者の立場で、実世界のマッシュアップを作成、組み立て、およびワイヤリングする方法について学習しました。マッシュアップを作成するために、ページ上のウィジェットを組み立て、それらを相互に通信できるようにワイヤリングしました。各ウィジェットは、自社の人事部門からの内部データや Web からの外部データなど、複数のソースからデータを表示します。

学習したレッスン

このモジュールを完了することにより、以下の目標を達成しました。

- IBM Lotus Mashups ツールボックスにウィジェットを追加する方法を学習する
- マッシュアップ・ページにウィジェットをドラッグして組み立てる方法を学習する
- ウィジェットの構成方法を学習する
- ページの保存方法を学習する

追加リソース

Mashup Center についてさらに学習するには、以下のリソースを使用します。

- IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) では、チュートリアル、よくある質問、ウィジェットのヘルプ、用語集など、製品情報が提供されています。
- IBM InfoSphere MashupHub ユーザー・インターフェースの「はじめに」セクションでは、チュートリアルと例へのリンクが提供されています。


第 5 章 モジュール C: マッシュアップでのスプレッドシート・データの使用

このモジュールでは、スプレッドシート内にあるデータをフィードに変換し、IBM Lotus Mashups に追加した後、他のウィジェットにワイヤリングする方法を学習します。

ジョブの中で発生する日常的な状況を解決するためにマッシュアップを作成する際、スプレッドシートやその他のデータ・ソースに入っている部門データを処理する必要が生じることは十分に考えられます。しかし、それらのデータをマッシュアップで使用できる形式にするには、どうしたらよいでしょう。つまり、どのようにすれば、それらのデータがマッシュ可能になるのでしょうか。幸い、IBM InfoSphere MashupHub は、このプロセスを非常に簡単にしてくれます。ユーザーはデータを単にフィードに変換するだけです。この変換により、データは XML ベースの項目セットに再フォーマット設定され、他のウィジェットはそのデータを構文解析し、フォーマット設定し、表示することができます。

モジュール B では、営業担当者に顧客データ (例えば、顧客のサイトの天候状態、顧客の Web サイト、顧客に関する最近のニュースなど) のクイック・ビューを提供するマッシュアップを作成しました。これを実現するために、Lotus Mashups に付属する「顧客リスト」ウィジェットを、ページ上にある別のいくつかのウィジェットにワイヤリングしました。「顧客リスト」ウィジェットは、送信側ウィジェットとして、イベント・データを他のすべてのウィジェットに送信しました。他のウィジェットは、イベント・データを受信すると、更新された情報を表示するために最新表示されました。

このモジュールでは、「顧客リスト」ウィジェットを再作成します。そのために、

スプレッドシートから Atom フィード  を作成し、その新しいフィードを Lotus Mashups に追加した後、フィードに入っているデータを「データ・ビューアー」ウィジェットで表示します。後で示すように、新しいウィジェットは元の「顧客リスト」ウィジェットと同じものになり、同じイベント・データを送信でき、ページ上にあるその他のウィジェットで同じアクションを起動することができます。

学習目標

このモジュールのレッスンを完了すると、以下の目標を達成できます。

- スプレッドシートから新しいフィードを作成する方法を学習する
- フィードを Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示する方法を学習する
- 新しいウィジェットをページ上の他のウィジェットにワイヤリングする方法を学習する

所要時間

このモジュールは、完了までに約 20 分かかります。

レッスン 1: 新しいフィードの作成

このレッスンでは、IBM InfoSphere MashupHub を使用してスプレッドシートから新しいフィードを作成する方法について学習します。

モジュール B から再呼び出した場合、「顧客リスト」ウィジェットには以下のようなデータ部分が含まれています。

- 顧客名
- 所在地
- 郵便番号
- 連絡先担当者
- チッカー・シンボル
- 会社の Web サイト
- 会社のフィード URL

それでは、まったく同じデータが入っているスプレッドシートをダウンロードし、そのデータを Atom フィードに変換することで、このウィジェットを再作成します。この変換により、データは XML ベースの項目セットに再フォーマット設定され、他のウィジェットはそのデータを構文解析し、フォーマット設定し、表示することができます。このステップを実行しなかった場合、スプレッドシートのデータはマッシュアップ可能にならず、他のウィジェットと通信できません。

新しいフィードを作成するには、以下のステップを実行します。

1. CustomerList.xls ファイルがデスクトップにダウンロードされていることを確認します。ダウンロードされていない場合は、IBM Mashup Center wiki の <http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf/dx/tutorial-introduction-to-creating-mashups-using-ibm-mashup-center> ページからダウンロードできます。
2. MashupHub の「ホーム」タブから、「作成」カテゴリーの「新規フィード」をクリックします。次の画面で、データ・ソースが「エンタープライズ (enterprise)」と「部門 (departmental)」の 2 つのカテゴリーに分割されていることに注意してください。エンタープライズ・データは、多くの場合、より全社的な IT で管理されたソース (データベース、サーバー、Web サービスなど) からのデータです。部門データは、一般的に言って、より限定的な組織固有の個人ソース (スプレッドシートおよび XML 文書など) からのデータです。このチュートリアルでは、部門データを作業の対象とします。
3. 「ソース」フィールドの「部門 (departmental)」セクションで、「Excel ワークブック」を選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 次のページで、以下のステップを実行します。
 - a. 「ヘッダー行」フィールドに「1」と入力します。これは、マッシュアップ・ページにデータを表示するときに、スプレッドシートの 1 行目を列見出しとして使用することを指示します。
 - b. 「範囲」フィールドと「ワークシート番号」フィールドは空のままにしておきます。

- c. 「入力タイプ」には、「ファイルのアップロード」を選択します。これにより、XLS ファイル定義全体と、関連するすべての成果物がカタログにアップロードされます。
 - d. 「ファイル・パス」フィールドで「参照」をクリックし、デスクトップ上のスプレッドシート・ファイルを指示します。
 - e. 「次へ」をクリックします。
6. 次の画面で、以下のステップを実行します。
- a. 「タイトル」フィールドに、「顧客リスト 2」と入力します。これは、Lotus Mashups に付属する元の「顧客リスト」ウィジェットと区別するのに役立ちます。
 - b. 「説明」フィールドに、「顧客リスト 2」を再入力します。
 - c. 「バージョン」フィールドに、「1.0」と入力します。これは、すでにデフォルトで入力されているはずです。
 - d. 「タグ」フィールドに、このフィールドを探すためにユーザーが使用するとされるタグをいくつか入力します。例えば、「Excel」、「顧客」、「データ」などです。
 - e. 「権限」セクションで、「パブリック」を選択します。これにより、すべてのユーザーがフィールドを表示できるようになります。フィールドに対する権限の設定の詳細については、MashupHub のヘルプを参照してください。
 - f. 「詳細」セクションでは、すべてのデフォルト・オプションをそのまま残します。将来のタスクのために、これらのオプションの詳細を知りたい場合は、MashupHub のヘルプを参照してください。
 - g. 「終了」をクリックします。

次の画面で、新しい「顧客リスト 2」フィールドの情報が保存されたことを通知されます。

7. 「次の作業 (What's Next)」セクションで、「フィールドの表示」をクリックします。新しいブラウザー・タブまたはウィンドウが表示されます。以下に、フィールドの最初の項目タグの例を示します。

```
<entry xmlns="http://www.w3.org/2005/Atom">
  <title type="text">Sheet1</title>
  <id>urn:uuid:2</id>
  <updated>2008-05-21T19:01:00.718Z</updated>
  <author>
    <name>agoneal</name>
  </author>

  <summary type="text">Atom Feed entry 2</summary>
  <content type="application/xml">
    <row xmlns="http://www.ibm.com/xmlns/atom/content/datarow/1.0">
      <Customer_Name>American International Group</Customer_Name>
      <Address>70 PINE ST New York NY</Address>
      <Zip>10270</Zip>
      <Contact>Kent E. Price</Contact>

      <Ticker>AIG</Ticker>
      <URL>http://www.aig.com</URL>
      <Feed_URL>http://news.google.com/news?q=aig&output=rss</Feed_URL>
    </row>
  </content>
</entry>
```

注: Firefox ブラウザーを使用している場合は、XML コードを表示するためには、「表示」→「ページのソース」を選択する必要があります。

- 引き続き「次の作業 (What's Next)」セクションで、「フィードの詳細の表示 (View the feed details)」をクリックします。続いて表示される画面で、リンクをクリックするとブラウザー内にフィードが表示されることに注意してください。また、タグを編集し、コメントを表示することもできます。次のステップでは、高いレーティングを付けて、このフィードがユーザーの検索で高いレーティングで表示されるようにします。
- 「詳細」セクションで、「マイ・レーティング」フィールドの最後の星印をクリックし、フィードに 5 という高いレーティングを付けます。情報が自動的に保存されます。
- フィードが正常に作成されたことを確認するために、「ホーム」タブをクリックします。
- 「カタログ」セクションで、「フィードのリスト」をクリックし、リストから「顧客リスト 2」を見つけます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、スプレッドシートから新しいフィードを作成する方法について学習しました。また、フィード・データを XML コードとして表示し、レーティングを付ける方法も学習しました。次のセクションでは、新しいフィードを Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示します。

レッスン 2: Lotus Mashups へのフィードの追加

このレッスンでは、新しいフィードを IBM Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示する方法を学習します。


Lotus Mashups のオープン検索機能により、カタログ内のフィードを非常に簡単に見つけて、ツールボックスに追加できます。このレッスンでは、前のレッスンで作成した「顧客リスト 2」フィードを、Lotus Mashups に追加します。

「顧客リスト 2」フィードを Lotus Mashups に追加し、「データ・ビューアー」ウィジェットに表示するには、以下のステップを実行します。

注: カatalogからフィードを Lotus Mashups に追加することもできます。詳しくは、IBM InfoSphere MashupHub ヘルプを参照してください。

- Lotus Mashups ブラウザーの右上隅にある検索フィールドに「顧客リスト 2」と



入力し、検索アイコン  をクリックします。結果リストに「顧客リスト 2」が表示されます。

- 「ツールボックスに追加」をクリックします。
- ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - 「ドロワー」フィールドで、新しいウィジェットを含めたいドロワーを選択します。
 - 次のフィールドで、フィードを表示するウィジェットとして「データ・ビューアー」を選択します。

- c. 「フィード情報」セクションで、タイトル・フィールドと説明フィールドの「顧客リスト 2」をそのまま残します。
 - d. フィードのアイコンを選択します。
 - e. 「追加」をクリックします。
4. 「完了」をクリックします。
 5. ツールボックスで、前に選択したドロワーを開き、新しい「顧客リスト 2」ウィジェットがそこにあることを確認します。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、フィードを Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示する方法を学習しました。これで、ウィジェットをページに追加し、ページ上の別のウィジェットにワイヤリングする準備ができました。


レッスン 3: ウィジェットのワイヤリング

このレッスンでは、「顧客リスト 2」ウィジェットをページに追加し、別のウィジェットにワイヤリングします。

モジュール 2 で、IBM Lotus Mashups に付属する「顧客リスト」ウィジェットをページに追加し、他のウィジェットにワイヤリングして、営業担当者が顧客データのクイック・ビューを参照できるマッシュアップを作成する方法について学習しました。このレッスンの目標は、これと同じマッシュアップを、スプレッドシート内にある顧客データを使用して再作成できることを示すことです。元の「顧客リスト」ウィジェットが新しい「顧客リスト 2」ウィジェットと同じものであり、同じ方法で他のウィジェットにワイヤリングできることが分かります。


このレッスンでは、新しい「顧客リスト 2」ウィジェットをページ上の別のウィジェットに正しくワイヤリングできることを確認するテストを行います。テストには、「Web サイト表示機能」ウィジェットを使用します。

2 つのウィジェットをワイヤリングするには、以下のステップを実行します。

1. Lotus Mashups で新しいページを作成します。
2. 「顧客リスト 2」をブランク・ページヘドラッグします。
3. 「Web サイト表示機能」ウィジェットをページ上の空の領域までドラッグします。
4. 「顧客リスト 2」ウィジェットの右上隅で、ワイヤリング・アイコン  をクリックします。
5. ワイヤリング・パネルの「送信するコンテンツの選択」領域で、「string from URL」を選択します。これは「顧客リスト 2」ウィジェットに、顧客の Web アドレスを「Web サイト表示機能」ウィジェットへ送信し、その顧客の Web サイトを検索して表示できるようにするよう指示します。
6. 「コンテンツを受信するウィジェットの選択」領域で、「Web サイト表示機能」を選択します。

7. 「Web サイト表示機能」ウィジェットが「URL」からストリングを受信したときに実行できるアクションのリストで、「displayhtml」を選択します。これは「Web サイト表示機能」ウィジェットに、顧客の Web サイトの URL を受信したら、それを表示するよう指示します。この時点で、ワイヤリング・パネルは次のようになります。



8. 「完了」をクリックします。ワイヤリング・パネルが自動的に閉じます。
9. ワイヤリングが成功したことを確認するために、「顧客リスト」ウィジェットでさまざまな顧客名をクリックします。異なる顧客名をクリックするたびに、「Web サイト表示機能」ウィジェットが更新され、顧客の Web サイトが表示されます。
10. ツールボックス内の保存アイコン  をクリックして、ページを保存します。

注: 「顧客リスト 2」ウィジェットを更新されたデータで最新表示したいときは必ず、Lotus Mashups ツールボックスからそのウィジェットを削除し、IBM InfoSphere MashupHub でフィードを編集して更新されたスプレッドシートを指すようにしてから、再び Lotus Mashups に追加する必要があります。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、モジュール B で「顧客リスト」をワイヤリングしたのと同じ方法で、新しい「顧客リスト 2」ウィジェットをページ上の別のウィジェットに正しくワイヤリングできることを確認しました。これにより、スプレッドシート・データをマッシュ可能なフォーマットに変換できることが分かりました。

モジュール C: 要約

モジュール C では、スプレッドシートにあるデータをマッシュ可能なフォーマットに変換し、マッシュアップで使用できるようにする方法を学習しました。

学習したレッスン

このモジュールを完了することにより、以下の目標を達成しました。

- スプレッドシートから新しいフィードを作成する方法を学習する
- フィードを Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示する方法を学習する
- 新しいウィジェットをページ上の別のウィジェットにワイヤリングする方法を学習する

追加リソース

Mashup Center についてさらに学習するには、以下のリソースを使用します。

- IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) では、チュートリアル、よくある質問、ウィジェットのヘルプ、用語集など、製品情報が提供されています。
- IBM InfoSphere MashupHub ユーザー・インターフェースの「はじめに」セクションでは、チュートリアルと例へのリンクが提供されています。

第 6 章 モジュール D: フィード・マッシュアップの作成と Lotus Mashups への追加

このモジュールでは、新しいフィード・マッシュアップを作成し、データの変換とフィルター操作を行い、IBM Lotus Mashups に追加します。

モジュール B では、営業担当者が顧客データ (例えば、顧客の会社の Web サイト、最近のニュース、会社所在地の天候状態など) のクイック・ビューを表示できるマッシュアップを作成しました。モジュール C では、スプレッドシートからの顧客データを、他のウィジェットが取り込むことができるフォーマットに変換する方法を学習しました。このモジュールでは、同じシナリオを一步進めて、過去 2 カ月間における顧客の売上パターンに関するデータの変換、フィルター操作、および公開を行うフィード・マッシュアップを作成します。最終目標は、最終的なデータをマッシュアップに追加し、顧客のサイトを訪問するかどうかの決定に役立てることです。具体的には、過去 2 カ月間のデータに基づいて、売上が 80% 以上落ち込んだ顧客を表示するフィード・マッシュアップを作成します。

作業を開始する前に、フィードとフィード・マッシュアップの違いをおさらいしておきましょう。簡単に言えば、「フィード」がフィード・リーダーで表示できる一連のデータであるのに対し、「フィード・マッシュアップ」は、何らかの方法で操作するフィードです。例えば、表示されるデータに何らかの条件に基づいてフィルターを掛けるよう、フィードを操作できます。IBM InfoSphere MashupHub では、フィード・マッシュアップ・ビルダーを使用してフィード・マッシュアップを作成できます。フィード・マッシュアップ・ビルダーには、一連の演算子と関数が含まれており、それらを使用してフィード・データをインポートし、データを操作して、結果を新しいフィードとして公開することができます。最終的に、フィード・マッシュアップはフィードと同じように動作します。それらをカタログに追加して、他のユーザーが使用したり、タグを付けたり、レーティングを付けたり、コメントを追加したりできるようにすることができます。また、フィード・マッシュアップを Lotus Mashups に追加すれば、フィード・データを「フィード・リーダー」ウィジェットまたは「データ・ビューアー」ウィジェットに表示できます。

学習目標

このモジュールのレッスンを完了すると、以下の目標を達成できます。

- スプレッドシートから新しいフィードを作成する方法を学習する
- フィードからフィード・マッシュアップ・ビルダーにデータをインポートする方法を学習する
- フィード・データを再構築して新しい出力を作成する方法を学習する
- フィード・マッシュアップ内でデータをフィルターに掛ける方法を学習する
- データを Atom フィードとして公開する方法を学習する
- Lotus Mashups に新しいフィードを追加する方法を学習する


所要時間

このモジュールは、完了までに約 30 分かかります。

レッスン 1: 新しいフィードの作成

このレッスンでは、IBM InfoSphere MashupHub を使用してスプレッドシートから新しいフィードを作成する方法について学習します。

ある会社で、営業部門が月々の売上データをスプレッドシートに記録しているとします。スプレッドシートを使用して、営業担当者は過去 2 カ月間の各会社の合計売上高を簡単に一覧できます。また、スプレッドシートには、そのスプレッドシートが最後に更新された日付を追加できる列もあります。これから始める各レッスンでは、そのデータを変換してフィルターに掛け、過去 2 カ月間に売上が 80% 以上下落した会社のデータのみがフィード・マッシュアップに表示されるようにします。

このレッスンでは、そのスプレッドシートからフィード  を作成します。ここでは、データのフォーマットを変換し、そのデータを操作してフィード・マッシュアップを作成できるようにします。

新しいフィードを作成するには、以下のステップを実行します。

1. CustomerSales.xls ファイルがデスクトップにダウンロードされていることを確認します。ダウンロードされていない場合は、IBM Mashup Center wiki の <http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf/dx/tutorial-introduction-to-creating-mashups-using-ibm-mashup-center> ページからダウンロードできます。
2. MashupHub の「ホーム」タブから、「作成」カテゴリの「新規フィード」をクリックします。次の画面で、データ・ソースが「エンタープライズ (enterprise)」と「部門 (departmental)」の 2 つのカテゴリに分割されていることに注意してください。エンタープライズ・データは、多くの場合、より全社的な IT で管理されたソース (データベース、サーバー、Web サービスなど) からのデータです。部門データは、一般的に言って、より限定的な組織固有の個人ソース (スプレッドシートおよび XML 文書など) からのデータです。このレッスンでは、部門データを作業の対象とします。
3. 「ソース」フィールドの「部門 (departmental)」セクションで、「Excel ワークブック」を選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 次のページで、以下のステップを実行します。
 - a. 「ヘッダー行」フィールドに「1」と入力します。これは、マッシュアップ・ページにデータを表示するときに、スプレッドシートの 1 行目を列見出しとして使用することを指示します。
 - b. 「範囲」フィールドに、「A1:E6」と入力します。
 - c. 「ワークシート番号」フィールドに、「1」と入力します。
 - d. 「入力タイプ」には、「ファイルのアップロード」を選択します。これにより、XLS ファイル定義全体と、関連するすべての成果物がカタログにアップロードされます。

- e. 「ファイル・パス」フィールドで「参照」をクリックし、デスクトップ上のスプレッドシート・ファイルを指示します。
 - f. 「次へ」をクリックします。
6. 次の画面で、以下のステップを実行します。
- a. 「タイトル」フィールドに、「顧客売上フィード」と入力します。
 - b. 「説明」フィールドに、「顧客売上フィード」を再入力します。
 - c. 「バージョン」フィールドに、「1.0」と入力します。これは、すでにデフォルトで入力されているはずです。
 - d. 「タグ」フィールドに、このフィードを探すためにユーザーが使用するとされるタグをいくつか入力します。例えば、「Excel」、「顧客」、「販売」などです。
 - e. 「権限」セクションで、「パブリック」を選択します。これにより、すべてのユーザーがフィードを表示できるようになります。フィードに対する権限の設定の詳細については、MashupHub のヘルプを参照してください。
 - f. 「詳細」セクションでは、すべてのデフォルト・オプションをそのまま残します。将来のタスクのために、これらのオプションの詳細を知りたい場合は、MashupHub のヘルプを参照してください。
 - g. 「終了」をクリックします。

次の画面で、新しい「顧客売上フィード」フィードの情報が保存されたことを通知されます。

7. 「次の作業 (What's Next)」セクションで、「フィードの表示」をクリックします。新しいブラウザー・タブまたはウィンドウが表示されます。以下に、フィードの最初の項目タグの例を示します。

```
<entry xmlns="http://www.w3.org/2005/Atom">
  <title type="text">Sheet1</title>
  <id>urn:uuid:2</id>
  <updated>2008-05-21T19:39:58.046Z</updated>
  <author>
    <name>agoneal</name>
  </author>

  <summary type="text">Atom Feed entry 2</summary>
  <content type="application/xml">
    <row xmlns="http://www.ibm.com/xmlns/atom/content/datarow/1.0">
      <Ticker>AIG</Ticker>
      <CustomerName>American International Group</CustomerName>
      <Two_Months_Ago>500000</Two_Months_Ago>
      <Last_Month>456800</Last_Month>

      <Date_Updated>6/12/2008</Date_Updated>
    </row>
  </content>
</entry>
```

注: Firefox ブラウザーを使用している場合は、XML コードを表示するためには、「表示」→「ページのソース」を選択する必要があります。

8. 「次の作業 (What's Next)」セクションで、「フィードの詳細の表示 (View the feed details)」をクリックします。続いて表示される画面で、リンクをクリックするとブラウザー内にフィードが表示されることに注意してください。ま

た、タグを編集し、コメントを表示することもできます。次のステップでは、高いレーティングを付けて、このフィードがユーザーの検索で高いレーティングで表示されるようにします。

9. 「詳細」セクションで、「マイ・レーティング」フィールドの最後の星印をクリックし、フィードに 5 という高いレーティングを付けます。情報が自動的に保存されます。
10. フィードが正常に作成されたことを確認するために、「ホーム」タブをクリックします。
11. 「カタログ」セクションで、「フィードのリスト」をクリックし、リストから「顧客売上フィード」を見つけます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、スプレッドシートから新しいフィードを作成する方法について学習しました。また、フィード・データを XML コードとして表示し、レーティングを付ける方法も学習しました。

レッスン 2: フィード・データのインポート

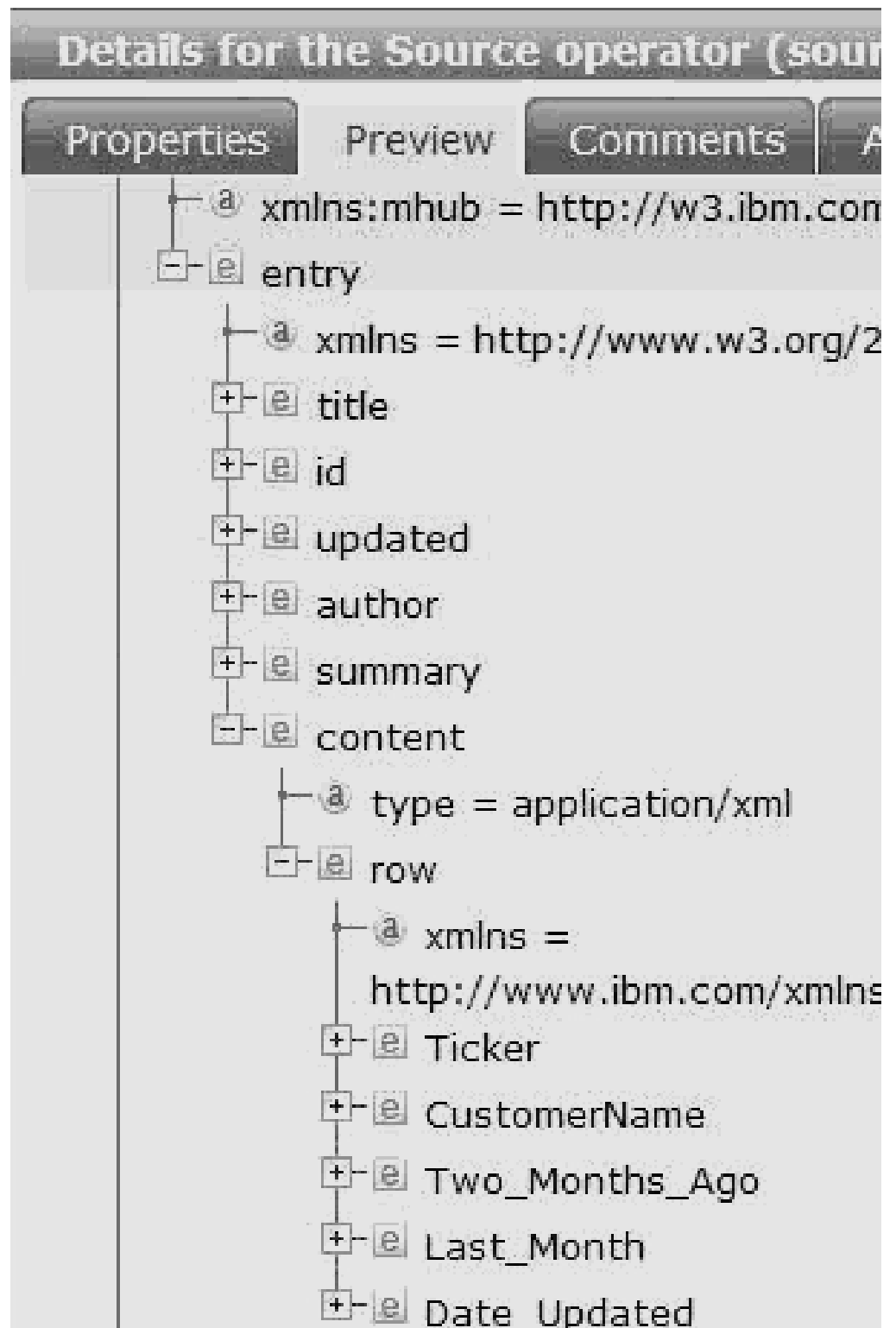
このレッスンでは、顧客売上フィードをフィード・マッシュアップにインポートします。

顧客売上スプレッドシートからフィードを作成したので、データはマッシュアップ内で使用できるフォーマットになっています。次のステップは、フィード・マッシュアップ・ビルダーを使用して、新しいフィードからデータをインポートすることです。ここでは、データを分解し、組み込みの演算子と関数を適用してデータを再構築できるようにします。

フィード・データをインポートするには、以下のステップを実行します。

1. IBM InfoSphere MashupHub の「ホーム」タブから、「作成」セクションの「新規フィード・マッシュアップ」をクリックします。これにより、フィード・マッシュアップ・ビルダーが開きます。
2. ブラウザーの左側にある演算子のリストで「ソース」を見つけ、キャンバス領域までドラッグします。一方の端にプラグがあり、もう一方の端にソケットがあることに注意してください。これらを使用して演算子同士を接続し、1 つの演算子から次の演算子へのデータ・フローを制御します。また、フィード・マッシュアップ・ビルダーがキャンバスに自動的に「公開」演算子を追加することにも注意してください。
3. 詳細ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - a. 「ソース」セクションで、「カタログから」を選択します。
 - b. 「参照」をクリックします。
 - c. フィードのリストで、「顧客売上フィード」を選択し、「OK」をクリックします。データのインポートが正常に完了すると、詳細ウィンドウに「ソースがロードされました」というメッセージが表示されます。
4. 「詳細」タブをクリックし、以下のステップを実行します。
 - a. 「フィード・タイプ」フィールドで、「XML」を選択します。

- b. 「最新表示間隔」フィールドで、「1日」を選択します。これは、常時最新表示されるデータに一般的な間隔です。もっと長い間隔を選択すると、データの取り出しがそれほど頻繁に行われなくなるので、エンド・ユーザーにとってパフォーマンスが向上する場合があります。
5. 「プレビュー」タブをクリックします。セクションを展開して、次の例に示すように、各項目内に列見出しが表示されることを確認します。



6. 「ソース」演算子の詳細ウィンドウを閉じます。データが自動的に保存されません。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、「ソース」演算子を使用してフィードからデータをインポートする方法を学習しました。

レッスン 3: フィード・データの再構築

このレッスンでは、着信フィード・データを再構築することにより、フィード・マッシュアップのデータ出力を操作します。これは、次のレッスンのフィルター操作プロセスの準備に役立ちます。

営業担当者にとって、売上が前月に比べて下落するのは非常に気掛かりなことです。特に、下落率が 80% 以上のときは心配になります。そのような場合は、下落の理由を知るために、できるだけ早期に訪問する必要がある得意先としてのフラグをその顧客に立てます。マッシュアップ内の他のさまざまな情報に加えて、この売上データは、顧客を訪問するかどうかについての迅速な意思決定に役立ちます。

このレッスンの目標は、新しい出力データ構造を作成し、次のレッスンで条件を設定してデータをフィルター操作できるようにすることです。具体的には、「**変換**」演算子を使用して、フィード・データ (入力データと呼ばれます) からいくつかの要素を引き継ぎ、新しい出力構造に追加します。また、各顧客について、売上情報が最後に更新されたときの月の値を格納するために、出力構造内に新しい要素も作成します。その値を独自の要素に格納することにより、比較を行い、その結果に基づいてフィルター操作を実行できるようになります。基本的には、データを変換した時点で、フィルター操作プロセスの準備をしていることになります。

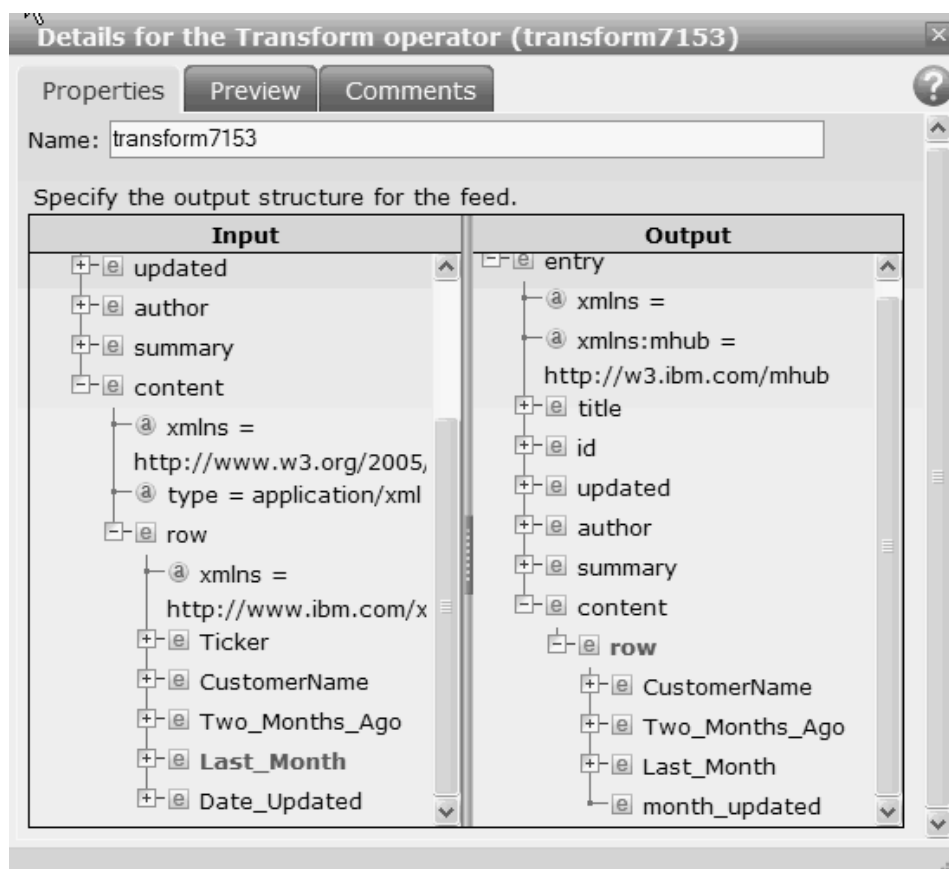
フィード・データを操作して新しい出力構造にするには、以下のステップを実行します。

1. ブラウザーの左側にある演算子のリストで「**変換**」を見つけ、キャンバス領域の「**ソース**」演算子と「**公開**」演算子の間のどこかにドラッグします。
2. 「**ソース**」演算子のプラグを「**変換**」演算子のソケットまでドラッグし、それらを接続します。
3. キャンバス内の「**変換**」演算子をダブルクリックして、詳細ウィンドウを開きます。
4. このステップを、「**入力**」フィールドにある以下の要素のそれぞれについて実行します。要素をクリックして緑色の強調表示にした後、「**出力**」フィールド内の空の領域までドラッグします。

- **title**
- **id**
- **updated**
- **author**
- **summary**

この時点で、各要素は **entry** 要素の子要素であるはずですが、このステップの目的は、Atom フィードの有効な要素を出力に保持することです。

5. このステップでは、月のデータを格納するために新しい親子要素を作成します。これにより、データが取り込み可能なフォーマットになります。最初に、「出力」フィールドの空の領域内を右クリックし、「新規要素」を選択します。新規要素の名前に「content」と入力してから、**Enter** キーを押して保存します。次に、新しい **content** 要素を右クリックし、「新規要素」を選択します。新規要素の名前に「row」と入力してから、**Enter** キーを押して保存します。**row** 要素は、**content** 要素の子要素になるはずですが。
6. 「入力」フィールドで、「entry」→「content」→「row」を展開します。以下の各要素を緑色の強調表示にして「出力」フィールドの中へドラッグし、作成したばかりの **row** 要素の上へ直接ドロップします。これにより、**row** が親要素になります。
 - **CustomerName**
 - **Two_Months_Ago**
 - **Last_Month**
7. 「出力」フィールドで、**row** 要素を右クリックし、「新規要素」を選択します。新規要素の名前に「month_updated」と入力してから、**Enter** キーを押して保存します。新規要素が **row** 要素の子要素であることを確認します。**month_updated** 要素は、前のステップでドラッグした 3 つの要素と階層内で同じレベルにあるはずですが。
8. 詳細ウィンドウを次のイメージと比較し、同じであることを確認してください。



9. 売上データが最後に更新されたときの月の値さえ分かればよいので、このステップでは、**Date_Updated** 要素のデータから月の値を抽出する正規表現を作成します。例えば、日付が 6/12/2008 の場合は、出力に月の値である 6 だけが必要です。これを行うには、「出力」フィールドで **month_updated** 要素を右クリックし、「関数値の指定」を選択します。
10. 「関数」ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - a. リストで、「ストリング」の下の「正規表現」を選択します。
 - b. 「パターン」フィールドで、「(¥d*)¥/(¥d*)¥/」と入力します。この式は、日付の中で最初のスラッシュの後にあるすべての文字を除去します。現在の例では、入力データは月、日、および年を 6/12/2008 というフォーマットで示しているため、この式を実行した後、出力は 6 のみになります。
 - c. 「入力」フィールドで、「入力ツリーからの値を指定」を選択します。「entry」→「content」→「row」を展開します。「Date_Updated」をクリックして緑色の強調表示にし、「OK」をクリックします。
 - d. 「索引」フィールドで、デフォルト値の 1 をそのまま残します。
 - e. 「OK」をクリックして「関数」ウィンドウを閉じます。
11. 各ステップを正しく実行したことを確認するために、「プレビュー」タブをクリックします。任意の **content** 要素の下で **month_updated** 要素を展開し、数値の 6 が表示されることを確認してください。これで、出力データに月の値だけが含まれることが分かりました。
12. 「変換」演算子の詳細ウィンドウを閉じます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、「変換」演算子を使用して着信フィールド・データの構造を操作し、現在の売上データ、具体的には現在の月である 6 月に更新されたデータのみが出力されるようにしました。

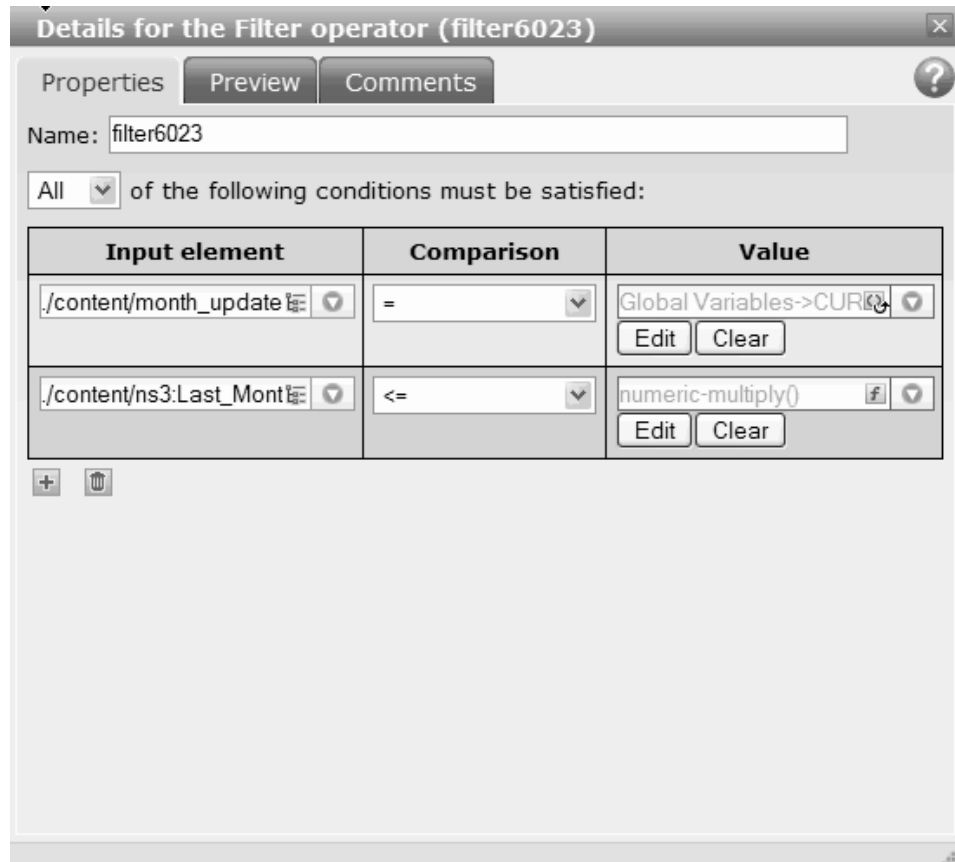
レッスン 4: フィールド・データのフィルター操作

このレッスンでは、出力に条件を設定することにより、フィールド・データをフィルターに掛けます。

どの顧客を今月訪問するかを決める際、顧客の売上に関して知る必要があるのは、2 つの情報だけです。つまり、どの売上データが 6 月に更新されたものであるかと、どの顧客が 4 月から 5 月までに 80% 以上の売上の下落を示したかということです。前のレッスンでは、着信フィールド・データの出力を操作し、営業担当者が最後にスプレッドシートを更新した月が取り込まれるようにしました。このレッスンでは、「フィルター」演算子を使用し、2 つの条件に基づいてデータをフィルターに掛けます。最初の条件は、6 月 (6 番目の月) に更新されたデータだけが公開されるように、データをフィルター操作します。2 番目の条件は、ある顧客の売上が 80% 以上下落したことを示すデータだけが公開されるように、データをフィルター操作します。この基準を満たすすべての状態はフィールド・マッシュアップに表示され、残りはフィルターで除外されます。

フィールド・データをフィルターに掛けるには、以下のステップを実行します。

1. ブラウザーの左側にある演算子のリストで「フィルター」を見つけ、キャンバス領域の「変換」演算子と「公開」演算子の間のどこかにドラッグします。
2. 「変換」演算子のプラグを「フィルター」演算子のソケットまでドラッグし、それらを接続します。
3. キャンバス内の「フィルター」演算子をダブルクリックして、詳細ウィンドウを開きます。
4. リストで、設定しようとしている両方の条件が満たされるようにするため、必ず「すべて」を選択します。
5. 「入力要素」には、「content」 → 「row」 → 「month_updated」 → 「6」 を選択し、フィールドに追加します。
6. 「比較」フィールドで、「=」を選択します。
7. 「値」フィールドで、「値を返す変数の使用」を選択します。
8. 「変数」ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - a. 「名前」フィールドに、「CURRENT_MONTH」と入力します。
 - b. 「デフォルト値」フィールドに、「6」と入力します。
 - c. 「OK」をクリックして、「変数」ウィンドウを閉じます。これで、フィールド・マッシュアップを表示すると **CURRENT_MONTH** がパラメーターになり、**6** がそのパラメーターのデフォルト値になります。
9. 詳細ウィンドウで、プラス・アイコンをクリックして新しい行を作成します。
10. 「入力要素」には、「content」 → 「row」 → 「Last_Month」 → 「456800」を選択し、フィールドに追加します。
11. 「比較」フィールドで、「<=」を選択します。
12. 「値」フィールドで、「関数値の指定」を選択します。
13. 「関数の選択」ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - a. リストで、「数値」セクションの「数値乗算」を選択します。
 - b. 「1 番目の値」フィールドで、「入力ツリーからの値を指定」を選択します。
 - c. 「content」 → 「row」 → 「Two_Months_Ago」 → 「500000」を選択してから、「OK」をクリックして、「値」フィールドに追加します。
 - d. 「2 番目の値」フィールドで、「.8」と入力します。
 - e. 「OK」をクリックします。
14. 詳細ウィンドウを次のイメージと比較し、一致することを確認してください。



15. 各ステップを正しく実行したことを確認するために、「プレビュー」タブをクリックし、いくつかの要素を展開して、データが有効であることを確認します。
16. 「フィルター」演算子の詳細ウィンドウを閉じます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、出力に条件を設定することにより、着信フィード・データをフィルターに掛ける方法を学習しました。

レッスン 5: フィード・マッシュアップの公開と保存

このレッスンでは、データを Atom フィードとして公開し、カタログに保存します。

データの再構築とフィルター操作が済んだので、データを Atom フィードとして公開する準備ができました。フィードを公開するときは、すべての Atom ヘッダー、メタデータ、およびフィード・マッシュアップからデータを取り込んで表示するために IBM Lotus Mashups に必要なフォーマット設定を追加します。

データを Atom フィードとして公開するには、以下のステップを実行します。

1. 「フィルター」演算子のプラグを「公開」演算子のソケットまでドラッグし、それらを接続します。

2. キャンバス内の「公開」演算子をダブルクリックして、詳細ウィンドウを開きます。
3. 「フィールド・タイプ」フィールドで、「ATOM」を選択します。
4. 「タイトル」フィールドに、「顧客売上マッシュアップ」と入力します。
5. 「作成者」フィールドに、自分の名前を入力します。特殊文字は使用しないでください。
6. 「フィルター」演算子の詳細ウィンドウを閉じます。
7. 「ホーム」タブの下にある「保存」をクリックします。
8. 「タイトル」フィールドに、フィールド・マッシュアップの名前の「顧客売上マッシュアップ」を再入力します。
9. 「説明」フィールドに、「顧客売上マッシュアップ」を再入力します。
10. その他のフィールドは、デフォルト値のままにしておきます。
11. 「終了」をクリックして、新しいマッシュアップ・フィールドをカタログに保存します。次の画面で、新しい「顧客売上マッシュアップ」フィールドの情報が保存されたことを通知されます。次に、新しいフィールドに関するいくつかの詳細を表示してみましょう。
12. 「次の作業 (What's Next)」セクションで、「フィールドの詳細の表示 (View the feed details)」をクリックします。続いて表示される画面で、リンクをクリックするとブラウザ内にフィールドが表示されることに注意してください。また、タグを編集し、コメントを表示することもできます。次のステップでは、高いレーティングを付けて、このフィールドがユーザーの検索で高いレーティングで表示されるようにします。
13. 「詳細」セクションで、「マイ・レーティング」フィールドの最後の星印をクリックし、フィールドに 5 という高いレーティングを付けます。情報が自動的に保存されます。
14. フィードが正常に作成されたことを確認するために、「ホーム」タブをクリックします。
15. 「カタログ」セクションで、「フィールドのリスト」をクリックし、リストから「顧客売上フィード」を見つけます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、データを Atom フィードとして公開し、カタログに保存する方法を学習しました。これで、そのフィードを顧客のクイック・ビュー・マッシュアップに追加する準備ができました。




レッスン 6: Lotus Mashups へのマッシュアップ・フィードの追加

このレッスンでは、新しいマッシュアップ・フィードを IBM Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示する方法を学習します。

Lotus Mashups のオープン検索機能により、カタログ内のフィードを非常に簡単に見つけて、ツールボックスに追加できます。このレッスンでは、前のレッスンで作成した「顧客売上マッシュアップ」フィードを、Lotus Mashups に追加します。

「顧客売上マッシュアップ」フィードを Lotus Mashups に追加し、「データ・ビューアー」ウィジェットに表示するには、以下のステップを実行します。

注: カタログからフィードを Lotus Mashups に追加することもできます。詳しくは、IBM InfoSphere MashupHub ヘルプを参照してください。

1. Lotus Mashups で、ツールボックスの右上隅にある検索アイコン  をクリックします。
2. ウィンドウに「顧客リスト 2」と入力し、検索アイコン  をクリックします。結果リストに「顧客リスト 2」が表示されます。
3. 「ツールボックスに追加」をクリックします。
4. ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - a. 「ドロワー」フィールドで、新しいウィジェットを含めたいドロワーを選択します。
 - b. 次のフィールドで、フィードを表示するウィジェットとして「データ・ビューアー」を選択します。
 - c. 「フィード情報」セクションで、タイトル・フィールドと説明フィールドの「顧客売上マッシュアップ」をそのまま残します。
 - d. フィードの表アイコン  を選択します。
 - e. 「追加」をクリックします。
5. 「完了」をクリックします。
6. ツールボックスで、前に選択したドロワーを開き、新しい「顧客売上マッシュアップ」ウィジェットがそこにあることを確認します。
7. 「顧客売上マッシュアップ」ウィジェットをページヘドラッグします。データの行だけが表示されることに注意してください。前に MashupHub で実行した変換操作とフィルター操作に基づけば、Capital One が条件を満たす唯一の顧客です。それ以外のすべてのデータは、顧客のサイトを訪問するかどうかを判断するためには必要ないので、フィルターによって除外されました。

注: 「顧客売上マッシュアップ」ウィジェットを更新されたデータで最新表示したいときは必ず、Lotus Mashups ツールボックスからそのウィジェットを削除し、MashupHub でフィードを編集して更新されたスプレッドシートを指すようにしてから、再び Lotus Mashups に追加する必要があります。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、フィードを Lotus Mashups に追加し、データを「データ・ビューアー」ウィジェットに表示する方法を学習しました。

モジュール D: 要約

このモジュールでは、新しいフィード・マッシュアップを作成し、カタログに公開し、Lotus Mashups に追加する方法を学習しました。

学習したレッスン

このモジュールを完了することにより、以下の目標を達成しました。

- スプレッドシートから新しいフィードを作成する方法を学習する
- フィードからフィード・マッシュアップ・ビルダーにデータをインポートする方法を学習する
- フィード・データを再構築して新しい出力を作成する方法を学習する
- フィード・マッシュアップ内でデータをフィルターに掛ける方法を学習する
- データを Atom フィードとして公開する方法を学習する
- Lotus Mashups に新しいフィードを追加する方法を学習する

追加リソース

Mashup Center についてさらに学習するには、以下のリソースを使用します。

- IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) では、チュートリアル、よくある質問、ウィジェットのヘルプ、用語集など、製品情報が提供されています。
- IBM InfoSphere MashupHub ユーザー・インターフェースの「はじめに」セクションでは、チュートリアルと例へのリンクが提供されています。

第 7 章 モジュール E: マッシュアップの公開と共有

このモジュールでは、マッシュアップをカタログに公開し、他のユーザーがディスカバーして再利用できるようにする方法を学習します。また、マッシュアップ・ページを共有し、それを他のユーザーが自分自身の Lotus Mashups ツールボックスに追加できるようにする方法についても学習します。

マッシュアップを含んでいるページを公開することにより、マッシュアップをカタログにポストすることができます。そのページの URL を Lotus Mashups サーバー上で公開するか、ページ定義全体とそのすべての成果物 (そのページに設定したすべてのプロパティのほか、ページ上のすべてのウィジェットと、それらのウィジェットの構成およびワイヤリング・プロパティ) をアップロードすることができます。

また、マッシュアップを個々のユーザーだけでなく、会社内のユーザー・グループと共有することもできます。マッシュアップを共有する場合、そのマッシュアップを含んでいるページを共有します。ページを共有した相手のユーザーは、Lotus Mashups を開いたとき、そのページを自分のナビゲーションに追加するかどうかを選択できます。それらのユーザーに対し、表示アクセス権または編集アクセス権を与えることができます。表示アクセス権を持つユーザーは、そのマッシュアップの表示だけができます。編集アクセス権を持つユーザーは、ウィジェットの追加、削除、構成、およびワイヤリングができます。しかし、それらのユーザーは所有者ではないので、マッシュアップ・ページを他のユーザーに共有させることはできません。

学習目標

このモジュールのレッスンを完了すると、以下の目標を達成できます。

- マッシュアップをカタログに公開する方法を学習する
- 権限を設定し、マッシュアップ・ページを他のユーザーと共有する方法を学習する

所要時間

このモジュールは、完了までに約 20 分かかります。

レッスン 1: マッシュアップのカタログへの公開

このレッスンでは、マッシュアップをカタログに公開します。これにより、他のユーザーがそのマッシュアップをディスカバーして再利用できるようになります。

そのページの URL を Lotus Mashups サーバー上で公開するか、ページ定義全体とそのすべての成果物 (そのページに設定したすべてのプロパティのほか、ページ上のすべてのウィジェットと、それらのウィジェットの構成およびワイヤリング・プロパティ) をアップロードすることができます。このレッスンでは、ページ定義全体とそのすべての成果物をアップロードします。

マッシュアップをカタログに公開するには、以下のステップを実行します。

1. Lotus Mashups ブラウザーの上部で、マッシュアップが入っているページである「顧客チュートリアル」の横の下矢印をクリックします。
2. 「このページの公開」を選択します。
3. ウィンドウで、以下のステップを実行します。
 - a. 「タイトル」フィールドに、「顧客クイック・ビュー」と入力します。
 - b. 「説明」フィールドに、「顧客クイック・ビュー」を再入力します。
 - c. 「バージョン」フィールドに、「1」と入力します。
 - d. 「タグ」フィールドに、「顧客」、「チュートリアル」、および「販売」を入力します。タグ付けにより、他のユーザーは、検索にこれらのキーワードを使用すると、このマッシュアップを検出できます。
 - e. 「権限」フィールドで、「公開」を選択します。これにより、すべてのユーザーがこのマッシュアップを表示できるようになります。
 - f. 「共用方式」フィールドで、「ページを URL として公開する」を選択します。
 - g. 「保存」をクリックします。
4. タブで IBM InfoSphere MashupHub に進みます。
5. 「カタログ」セクションで、「ページのリスト」をクリックします。
6. 当該のマッシュアップがリストに表示されることを確認します。オプションとして、「詳細の表示」をクリックして、コメント、レーティング情報、および追加のタグを追加します。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、マッシュアップをカタログにマッシュアップ・ページとして公開する方法を学習しました。これで、他のユーザーがそのマッシュアップをディスカバーして使用できるようになりました。

レッスン 2: 他のユーザーとのマッシュアップの共用

このレッスンでは、権限を設定し、マッシュアップ・ページを他のユーザーと共用する方法について学習します。

マッシュアップは、個々のユーザーだけでなく、会社内のユーザー・グループと共用することもできます。マッシュアップを共用する場合、そのマッシュアップを含んでいるページを共用します。ページを共用した相手のユーザーは、Lotus Mashups を開いたとき、そのページを自分のナビゲーションに追加するかどうかを選択できます。それらのユーザーに対し、表示アクセス権または編集アクセス権を与えることができます。表示アクセス権を持つユーザーは、そのマッシュアップの表示だけができます。編集アクセス権を持つユーザーは、ウィジェットの追加、削除、構成、およびワイヤリングができます。しかし、それらのユーザーは所有者ではないので、マッシュアップ・ページを他のユーザーに共用させることはできません。

マッシュアップ・ページを他のユーザーと共用するには、以下のステップを実行します。

1. Lotus Mashups ブラウザーの上部で、ページ・メニューを開きます。

2. 「このページの共有」を選択します。
3. 「このページのアクセス権」ウィンドウで、検索フィールドを使用して個々のユーザーおよびグループを「検索結果」リストに追加します (このリストは、検索フィールドの横にある検索ボタンをクリックした後に表示されます)。
4. 「検索結果」リストで、マッシュアップを共有したい個人およびグループの横にあるチェック・ボックスを選択します。
5. 選択したユーザーに表示アクセス権を与えるには「表示に追加」をクリックし、選択したユーザーに編集アクセス権を与えるには「編集に追加」をクリックします。

ユーザーおよびグループをリストに追加した後、チェック・ボックスを選択またはクリアすることにより、必要に応じてアクセス権を付与または除去することができます。

レッスン・チェックポイント

このレッスンでは、権限を設定し、マッシュアップ・ページを他のユーザーと共有する方法について学習しました。

モジュール E: 要約

このモジュールでは、マッシュアップをカタログに公開し、他のユーザーがディスカバーして再利用できるようにする方法を学習しました。また、マッシュアップ・ページを共有し、それを他のユーザーが自分自身の Lotus Mashups ツールボックスに追加できるようにする方法についても学習しました。

学習したレッスン

このモジュールを完了することにより、以下の目標を達成しました。

- マッシュアップをカタログに公開する方法を学習する
- 権限を設定し、マッシュアップ・ページを他のユーザーと共有する方法を学習する

追加リソース

Mashup Center についてさらに学習するには、以下のリソースを使用します。

- IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/idd/mashupswiki.nsf>) では、チュートリアル、よくある質問、ウィジェットのヘルプ、用語集など、製品情報が提供されています。
- IBM InfoSphere MashupHub ユーザー・インターフェースの「はじめに」セクションでは、チュートリアルと例へのリンクが提供されています。

第 8 章 要約

このチュートリアルでは、IBM Mashup Center を使用して実世界のマッシュアップを作成し、他のユーザーが使用できるようにカタログに公開するエンドツーエンド・プロセスについて学習しました。ここでは、スプレッドシートのデータをマッシュアップで使用できる形式に変換し、そのデータをウィジェットに表示する方法を学習しました。また、既存のフィードの出力を操作してマッシュアップに追加し、新しいフィードを作成する方法についても学習しました。

学習したレッスン

このチュートリアルを完了することにより、以下の目標を達成しました。

- 基本用語とユーザー・インターフェースを理解する
- マッシュアップを組み立て、ワイヤリングする
- スプレッドシートのデータをフィードに変換し、マッシュアップに追加する
- フィード・データをフィード・マッシュアップに再構築し、マッシュアップに追加する
- マッシュアップをカタログに公開し、他のユーザーがディスカバーして再利用できるようにする

追加リソース

Mashup Center についてさらに学習するには、以下のリソースを使用します。

- IBM Mashup Center Wiki (<http://www-10.lotus.com/ldd/mashupswiki.nsf>) では、チュートリアル、よくある質問、ウィジェットのヘルプ、用語集など、製品情報が提供されています。
- IBM InfoSphere MashupHub ユーザー・インターフェースの「はじめに」セクションでは、チュートリアルと例へのリンクが提供されています。